

# もっと 公民館

～ あなたはこの にどんな言葉をいれますか ～





はじめに

まず、この報告書をまとめた私たち社会教育委員について説明させていただくことから、報告を始めさせていただきますと思います。

社会教育委員とは法律に基づいて<sup>1</sup>、市民の代表として社会教育施設<sup>2</sup>の運営や事業などについて教育委員会に意見を伝える(意見具申する)役割を持っています。

委員会ではないので、委員一人ひとりが意見を述べることもできますが、多くの知恵や知識、様々な考え方を持ち寄って話し合う(協議する)方が、よりよい意見になるので、社会教育委員全員で何度も話し合ったり学び合ったりして、諮問に対する答申<sup>3</sup>や提言、報告書などをまとめます。その全員のまとまりのことを社会教育委員会議と呼びます。

このたびは、前回の研究調査報告書<sup>4</sup>の内容を更に深め具体化するために、市民アンケート<sup>5</sup>や公民館での聴き取り、様々な事例の収集など調査研究をして報告することとなりました。それがこの「もっと〇〇〇公民館～あなたは〇〇〇にどんな言葉をいれますか～」という研究調査報告書です。「もっと」というのは不足を指摘しているのではなく、公民館がこれまで以上に地域づくりの核となる可能性に期待をこめた言葉です。

アンケートの項目作り、ヒアリング調査<sup>6</sup>など初めてのことも多く、また、その結果から読み取ったことを会議で話し合い、報告書にまとめる際には限られた時間の中で、委員みんなで分担して執筆したり構成を考えたり、宿題にして持ち寄ったり。私たち委員にとっても学ぶことの多い作業でした。

そのようにして出来あがったこの報告書は、公民館に関わるすべての人へのエールになれば、という願いが込められています。

社会教育に関わる職員の皆様だけでなく、市民のみなさま、特に「社会教育って何?」「公民館って何をしているかよくわからない」という方々にも読んでいただけたら嬉しく思います。

---

<sup>1</sup> 社会教育法

<sup>2</sup> 公民館、図書館、博物館など様々な世代が学習するための施設

<sup>3</sup> 教育委員会から「～についてどうしたら良いか考えをまとめて欲しい」と出されるもの(諮問)に対して、「私たちはこのように考えます」と意見をまとめたもの。「お答え申し上げます」と提出するので「答申」。

<sup>4</sup> 令和元年 12 月研究調査報告書「社会教育が拓く豊かな地域コミュニティ ～人づくり、場づくり、仕組みづくりの実践と豊かな地域社会の創造～」

[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/018/143/houkoku.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/018/143/houkoku.pdf)

<sup>5</sup> 「楽しめる学びと催しに関するアンケート調査」令和 4 年 11 月実施

<sup>6</sup> 3 区 6 公民館に社会教育委員が訪問し職員に聴き取り調査をしたもの。令和 4 年 12 月～令和 5 年 1 月実施



## 社会教育委員からのメッセージ

五十音順

氏名	ひとことメッセージ
雨宮 健一郎	孤立が大きな社会問題となっている現在、公民館は世代を超え地域を結び直す大切な場です。皆様とともに価値ある場をつくりたいです！
安西 信行	活動を行って感じることは、職員の目に見えないバックアップの上で活動ができていることです。公民館での活動が、新しい出会いの場づくりになると期待。
石川 利江	大人になると友達をつくるのが難しく感じますが、動き出すと視界が変わります。散歩のついでに公民館をのぞいてみませんか。
海野 浩	公民館の利用者のますますの増加、非利用者への理解推進がより進めばと思います。そして、全ての世代の交流の広がりを期待します。
大久保 宗俊	若人から高齢者まで地域の活動・学びの場、人と人との輪を広げる場として公民館が身近な施設としてより広く利用されることを願っています。
大橋 千景	地域の公民館で新しい自分や仲間と出会う事で日々の暮らしがもっと生き生きとしてくるなら利用しなくては！ですね。
金子 友枝	コンサート出演時にお世話になっておりますが、どの公民館も素敵な笑顔の方がかりです。仕事大変だとは思いますが頑張ってください！
小泉 喜亮	公民館は子どもからお年寄りまで安心して集える憩いの場。地域活力の拠点として益々パワーアップして欲しいです！
小林 政美	若者が安心して大人になれる場、多世代が信頼関係の心地よさに浸れる場こんな“もうひとつの居場所づくり”の名仕掛け役を公民館に期待！！
奈良田 久	地域と学校がつながることはとても重要なことです。その中で公民館の取り組みが子どもたちの学びにつながっていくことを期待します。
秦野 玲子	私は公民館が大好きです。ですから、公民館が地域の必需品として、今よりもっと市民の学びに活用されるようにと願っています。
古矢 鉄矢	出会いや交流を喜びとする公民館関係者の皆さま。ありがとうの言葉を糧とする職員の皆さま。そうした皆さまがいて公民館があります。
水谷 英正	ネットでの繋がりが主流になりつつある世の中で、リアルな繋がりに固執する公民館も捨てたもんじゃないという揺り戻しがあっても良いかも。
若林 由美	異年齢の人たちが集う場所、公民館。 事業を企画し運営する職員の皆さまに感謝しつつ、新しい公民館のモデルを探っていきましょう！

# 目 次

はじめに	.....	1
社会教育委員からのひとことメッセージ	.....	2
みんなのもっとをかなえる 公民館の未来デザイン		
○ もっと親しみのある公民館	.....	6
○ もっと使いやすい公民館	.....	8
○ もっとチャレンジする公民館	.....	9
コラム	・ 音を楽しむ体験を公民館で	11
○ もっと若者が地域を元気にする企画を一緒に実現する公民館	.....	12
コラム	・ 若者支援の現場から	15
	・ 学校の立場から	15
○ もっと子どもたちが安心できる居場所になる公民館	.....	16
○ もっと色々な世代が交流できる公民館	.....	17
コラム	・ 多世代がひとつになる場作り	18
○ もっと気軽に参加出来る催しが沢山ある公民館	.....	19
○ もっとPR じょうずな公民館	.....	21
○ もっと色々な人が気軽に立ち寄れる公民館	.....	22
○ もっと地域を知って、地域を好きになるしかけがある公民館	.....	24
○ もっと学校とつながる公民館	.....	27
○ もっと他の課や機関とタイアップする公民館	.....	28
コラム	・ 公民館はみんなの居場所	28

○ もっと企画運営の切り口や方法を工夫する公民館	・・・・・・・・	29
コラム	・ 公民館で学びの楽しさや仲間との出会いを	・・・・・・・・ 31
○ もっとゆとりある働き方ができる公民館	・・・・・・・・	32
○ もっと地域の人財が輝く公民館	・・・・・・・・	33
○ もっと学んだ成果を地域の中で活かす機会をつくる公民館	・・・・・・・・	33
コラム	・ 学んだ力で保護者の笑顔を増やしたい	・・・・・・・・ 34
	・ 幸福になるための方法	・・・・・・・・ 34
○ もっと色々な人が企画に関わる公民館	・・・・・・・・	35
コラム	・ 若い世代の笑顔と力で楽しさの連鎖	大沢公民館 ・・ 37
	・ 自分たちの企画が形になる喜び	星が丘公民館 ・・ 38
そんな「もっと」をかなえるために	・・・・・・・・	39
研究調査報告書について	・・・・・・・・	40
むすびにかえて	・・・・・・・・	46
公民館 MAP	・・・・・・・・	48
社会教育委員会議 開催経過	・・・・・・・・	54
社会教育委員名簿	・・・・・・・・	56

**みんなの「もっと」をかなえる**

## **公民館の未来デザイン**

～ 公民館が地域づくりの核として発展する可能性に期待をこめて ～

公民館ってどこにあるのかわからない



あるのは知っているけど、謎の建物

なんかちょっと暗い感じもするね

それなら…

## もっと親しみのある公民館

### [ 公民館に愛称をつけたら？ ]

公民館という名前は大切だけれど、みんなが親しみを込めて呼ぶ愛称があっても良いですね。応募できるのは中学生以下にしてみたら子どもたちにももっと親しんでもらえるかもしれません。

例

埼玉県八潮市

“ りらーと八條 ” … 八條図書館・公民館

りらーとは、:read(読む)、learn(学ぶ)、together(一緒に)の頭文字を取った造語。

茨城県守谷市

“ もりりん ” … 守谷市立公民館

日頃公民館を利用するサークル代表者の愛称検討委員会で6つにまで絞り、最終的に市内小学校の5、6年生にアンケートを実施。その結果、決まった愛称。

### [ みんなで公民館のドアを塗っちゃう ]

DIY 講習会の実習として、公民館のドア(会議室やトイレ)をカラフルに塗ってはいかが？  
一石二鳥だし 「このドア、お母さんが塗ったのよ」なんて子どもに自慢できたら愛着がわきそうです。

ヒアリング調査から

- ・照明の明るさなどの雰囲気も大切かと思います。
- ・沢山のチラシや配架物が読みやすいように、照明を明るくしロビーで BGM を流せばさらに居心地が良くなって利用者が増えるのではと思います。



[ サークルの人たちだけでなく、地域の人々の作品やコレクションを飾ってみました ]

地域の中には色々な達人や、世界を回って楽しいコレクションを持っている人がいます。そんな人々から作品や収集品をお借りして公民館のロビーなどに展示したら楽しそう。

例 手作りひな人形展

広報で募集し、地域の方から手作りしたひな人形をお借りしてロビーで飾った事業

事業に関わってくれる色々な特技をもつ人を見つけることにもつながりました。



ヒアリング調査から

- ・公民館まつりの代わりに行った作品展で、利用団体だけではなく、地域の方々の個人参加を募ったところ、色々な方が応募してくれて、結果、木彫りの作家や篠笛製作士など、人財発掘にもつながりました。

公民館が地域のために“大切にしている思い”や“その思いを形にした事業”は沢山あるのでもっともっと PR して、「ちょっと寄ってみようかな」って思ってもらえるようにできたらいいね。

島根県浜田市の事例

「人を育て 郷を育てる公民館」 令和3年2月 浜田市公民館連絡協議会

「公民館を拠点とした若い世代の地域活動参加へ」といった、若い世代が地域活動の拠点となる公民館に親しみをもってもらえるような活動例が掲載されています。

[https://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1611295521579/simple/katudou\\_torikumi.pdf](https://www.city.hamada.shimane.jp/www/contents/1611295521579/simple/katudou_torikumi.pdf) (2023.11.09)

そもそも、公民館ってどう使うかわからない



登録しないと使えないんだよ  
使いたい日に行っても使えないなあ

ヒアリング調査から

・いつ来ても、誰でも使えるフリースペースを公民館が持っていたら、身近な公民館になる。  
利用が多い地区と、人口が少ない地区とでは違うので、地域に合わせた活動とともに利用も柔軟に対応出来るようにしたい。部屋が空いていても「予約しないと使えません」では敷居が高い。利用枠も地域にあわせて使い勝手の良いものにしたいと思う。

だったら…

## もっと使いやすい公民館

[ いまのしくみの改善・工夫ができないかな? ]

今のしくみ

主に使う公民館を決めて、名簿と申請書を公民館に出し、2~3週間したら利用者登録カードを受け取り、その後、さがみはらネットワークシステムで部屋の申し込みや利用の抽選をします。



新しい仕組みの案

当日、空いている部屋がある場合は、「ワンタイム登録」のようなしくみがあってその日活動したいことや住所、氏名を書けば使えるようにできると良いですね。もちろん、使えない内容はあらかじめ周知することが必要ですけれど。

それから登録も、ネットで出来る方が良いですね。

そして、事前に許可を取れば飲食も出来る館はあるけれど、飲食禁止の公民館もあり、せっかくの集まりができないこともあるので、すべての館で子ども会のお楽しみ会などにちょっとしたお菓子と飲み物も出せるようにしてほしいです。

旧連絡所のあった公民館ではオープンスペースが使えるところもあるけれど、他の公民館でも、時間帯や曜日によって空いている部屋を、毎日ではなく曜日や時間限定でも良いので、オープンスペースとして使えるように工夫出来ないでしょうか。

テーブルと椅子のセットが何組か置いてあって、ちょっとした打ち合わせなどできると良いですね。

利用状況や団体数によって、全館がすぐというわけにはいかないとありますが、出来る館から出来ることだけでも…ね。



今はネットでたいいのことは学べるね  
わざわざ公民館に行く意味ってなんだろう



行ったからこそその感動があれば  
時間をつくってでも行くけどね

アンケートから

講座やまつりに参加したことがない人がどのような内容に参加したいか

園芸や農業を家庭でも手軽にできるヒント（プロからコツを教わるなど）	44.8%
音楽に触れる、楽しむ（音楽鑑賞、楽器の製作、自由に楽器に触れるなど）	43.8%
スポーツ、レクリエーションを楽しむ（競技ではなく気軽に参加できるものなど）	41.6%

地域の特徴を活かした「行ったからこそ」の事業例

- 相模湖公民館 [ 地元の山での伐採体験 ]
- 横山公民館 [ 地域の菓子工房のパティシエから学ぶケーキ作り講座 ]
- 上溝公民館 [ 地域の講師から野菜作りを実演で学び継続的に育てる講座 ]

## もっとチャレンジする公民館

これまでやっていた講座をやめるのは勇気がいります。  
これまでやったことがない講座をやるのも勇気がいります。  
でも、まだ公民館で学ぶことの価値が届いていない人たちに  
「公民館で学ぶって楽しい」と思ってもらえるためには、これまでと似たような内容、同じような人が参加する講座ではなく、  
思い切って「こんなことやっちゃ駄目かな？」と引っ込めていた  
アイデアを実現してみてもはどうでしょう。



NPO など他の団体と連携・共催することも事業の幅を広げることにつながりそうです。  
そのためには、いくつかの事業はやめなければ新しいことをやる場所も時間も足りないでしょう。

事業の棚卸しをして、「やってみたかった講座」にチャレンジしませんか。

## 公民館とNPOが連携した事例

もうひとつの学び舎 ～アウトドアの達人にまなぼう～

<奈良市中部公民館：2019年11月9日（土）～2020年2月8日（土）全4回>

「もうひとつの学び舎」は、中部公民館と特定非営利活動法人奈良NPOセンター（現：奈良NPOセンターもうひとつの学び舎実行委員会）が協力して、「子どもの参画」の実現と「学びを通じた地域づくり」をめざした講座。

アウトドアの達人である奈良YMCA野外活動アドバイザーの藤井辰男さんから野外での自然観察や料理体験などを通じて、生きる力や自然の不思議さ、命の尊さについて学びました。

第1回：2019年11月9日（土）「火おこし体験をして、焼きいもをしよう」

「奈良・人と自然の会」のみなさんにご協力いただき、講師の藤井さんの指導のもと、一人ひとりが火おこしの体験をして、いもほりと焼きいもをした他「奈良・人と自然の会」の代表者の方から、里山での取り組みについてのお話。

第2回：2019年12月14日（土）「自然や生きものにふれ、自然の神秘を探そう」

奈良公園に出かけ、自然の色や生きものを探し、自然をテーマにしたゲームをして楽しんだ後は、公民館に戻って、持ち帰った落ち葉の色と色画用紙を比べて自然の色の豊かさを実感する体験と落ち葉を使ったスタンドグラス作り

第3回：2020年1月11日（土）「野外料理はサバイバルだ」

もし災害が起こってライフラインが途絶えたら・・・。

藤井さんから数々のボランティア体験についてのビデオを見せながらお話ししていただいた後、災害時を想定して、カセットコンロ・ビニール袋、限られた量の水を使い、ご飯とシチューとココアケーキを作りました。

第4回：2020年2月8日（土）「テントをたてよう！布一枚で何でもできる」

講師の藤井さんと一緒に世界各国を旅してきた色々なテントをみんなで立てました。

極寒地で使えるテントがあれば、震災で被害にあった土地でボランティア活動を行う際に使用したテントもあります。

それぞれのテントの特徴を学びながら、被災した際にどうやって寝るところを確保するのか考えました。

その後、NPO法人奈良ストップ温暖化の会のみなさんから、災害時に役立つふるしきの活用法を学びました。基本の結び方（真結び・ひとつ結び）をマスターし、自分たちでもどんな使い方ができるかを考えながら、帽子・リュック・ロープ・給水袋の作り方と水運びなどを教わりました。

公財) 奈良市生涯学習財団 <https://manabunara.jp/0000010579.html> (2023.11.09)

## コラム

[ 音を楽しむ体験を公民館で ]

この数年のコロナ禍では、音楽演奏を楽しむ方々も、皆で集まっての練習や発表会などが行えず、また、演奏家達もコンサートやライブ活動が行えず、唯一配信でなんとか音楽を届けるといふ、プロもアマも皆が辛い状況ではありました。

やっと今年5類に移行となり、コンサート開催も元に戻りつつある中で、やはり演奏する側も聴く側も生演奏に尽きると改めて実感したのではないかと私は思います。

楽器演奏や歌を歌うなど、今まで経験のない方には、とてもハードルが高く感じられるようですが、音を奏でたり声を出す事は「音楽」と言う字の如く、とても楽しい事だと思います。私は独奏よりも、仲間と1つの曲を作り上げる合奏がとても好きです。

公民館は、このような事をまず身近でチャレンジできる、そんな場所だと思います。

各公民館の中には、色々な音楽サークルがあります。

仲間と和気藹々<sup>あいあい</sup>と練習をし、公民館まつりなどでも発表されたりもしますので舞台上でみんなで演奏する充実感も得られると思います。

また、プロの音楽家を呼んでのコンサートなども各公民館では行なっているようで、演奏家の、時に迫力のあるまた時に繊細な演奏を、また演奏に込めた思いや息遣いなども間近で感じる事ができると思います。

音楽は国境を越えます。言葉は通じなくても、音を出せば違う国の人達とも交流ができます。

身近にあり、みんなにオープンな公民館だからこそ、活用して楽しんで頂けたらと思います。

相模原市文化協会 副会長 金子 友枝



小学生や中学生だって教えられることもあるよ



わたしたち子どもだって自分たちで楽しい  
催しを考えたり実現したりしたいよね

だったら…

## もっと若者が地域を元気にする企画を 一緒に実現する公民館

若者たちがより継続的に公民館を利用するには、「企画を自分たちでつくっている」という体験を通して学ぶ実感を得られることが大切です。

そんな機会があればきっと若者たちも公民館へ集って来るでしょう。

徐々に自分たちが企画の中心になっていく中で、その育ちや学びを支えるおとなたちと出会うかも知れません。

その学びはきっと関わるおとなたちにとっても充実した機会になるのではないのでしょうか？ そのような取り組みが増えていけばきっと地域も元気になっていく気がします。

### [ 子どもや若い人たちに企画を募ろう ]

子どもまつりだけでなく、子どもたちが先生になれる小さな講習会を、子どもたちに企画してもらおう「子どもが先生 ～〇〇公民館まなびメッセ～」といった催し物をおとなは完全に裏方に徹してやってみる、子ども向け事業の企画だけでなく、成人向け事業について若者のアイデアを公民館で実現することを応援する催しなどはどうでしょう。



### 広島県の事例

中学生が冒険遊び場作りをしている広島の公民館事業  
「このまちに暮らしたいプロジェクト」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/314289.pdf> (2023.11.09)

広島県尾道市重井公民館 中学生対象事業  
「オール重井で協働のまちをつくり隊」

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/424994.pdf> (2023.11.09)

## 岡山県の事例

### 若者応援プロジェクト～あなたのやりたいこと×公民館～

岡山市立公民館公民館基本方針(2019年策定)では、これからの公民館が重点的に取り組む分野として「若者と地域をつなぐ」を掲げています。

公民館は本来、だれもが利用できる施設です。高校生や大学生の地域づくりへの思いを公民館が応援することで、自分だけではできなかったことや若者の思いが実現するきっかけになり、地域の多様な人の輪につながることを目指しています。

Learning to Transform Oneself and Society, SDGs・ESD, Future is Yours, Choice For Earth, Under a New Normal, Life is a Series of Choices. Sustainable Action in Okayama. Learning to Transform Oneself and Society, SDGs・ESD, Future is Yours, Choice For Earth, Under a New Normal, Life is a Series of Choices. Sustainable Action in Okayama.

# 若者 × 公民館 で始める 未来のつくりかた

あなたのやりたいことを公民館が応援します!

中・高・大学生や若者のみなさん!  
地域でこんなことできないかなあと、あなたが思っているアイデアを、公民館に持ち込んで一緒に実現してみませんか?  
自分たちが楽しむことで周りの人も幸せになれそうなこと、オンラインで始めるあれこれ、持続可能なまちづくりのためにこんなことやりたいなど、あなたが持っているタネを公民館に持ち込んでください。公民館職員と一緒に企画を練り上げて、実現をサポートします。

一つのアイデアの実現に、最大10万円の講師用謝礼金を用意しています!

募集期間 令和2年8月～12月

実施期間 令和3年3月まで  
準備に時間がかかる場合は、4月以降の実施もあり得ます

募集対象 中・高・大学生又は若者(個人) やそのグループ

こんな内容を

地域や自分たちが抱えている問題を解決するもの、公民館で取組んでいない新しい分野、ネットの活用など新たな方法に挑戦するもの

- ・地域活性化やまちづくりにつながるような分野で、そこにある問題(福祉や文化、仕事づくり、子どもたちの居場所を含む地域の諸問題)を解決する取組み。
- ・感性を活かした、まちが元気になるような取組み
- ・WEBを活用したオンラインでの開催もありえます。

※まずはご相談ください。

申込み・問合せはこちらへどうぞ(裏面もご覧ください)

岡山市教育委員会 生涯学習課 公民館振興室  
TEL: 086-234-6015 FAX: 086-234-6016 Email: kouginkanshinkoushitsu@city.okayama.lg.jp

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ここから始まる 公民館革命!?

あなたのやりたいこと×公民館 事業名称 応援プロジェクト

Learning to Transform Oneself and Society, SDGs・ESD, Future is Yours, Choice For Earth, Under a New Normal, Life is a Series of Choices. Sustainable Action in Okayama. Learning to Transform Oneself and Society, SDGs・ESD, Future is Yours, Choice For Earth, Under a New Normal, Life is a Series of Choices. Sustainable Action in Okayama.

### このプロジェクトで実現した事例

○学生×北公民館「はたらくカフェ」の実施(2回)

授業やインターンシップで公民館とつながった大学生の「大学1,2年生は働くことへの意識が低いのでは?就職活動前に仕事を身近に話せる場を作りたい。」という思いをもとに、大学に近い公民館で、岡山市内で意欲的に働く若手社会人と学生が語り合う場「はたらくカフェ」を実施しました。

○NPO 法人チーム響×西大寺公民館「ドリームフェスティバル」

「小学生が夢を持つため、小学生が憧れるような職業を体験できる機会をつくりたい。」という希望があり、eスポーツ、看護師、アナウンサーなどの職業体験ができる企画を実施。

岡山市 若者応援プロジェクト(2020年度)【公民館振興室】

<https://www.city.okayama.jp/sdgs-esd/0000038657.html> (2023.11.09)

この他にも、岡山県立瀬戸南高校のSDGs学習発表会の瀬戸公民館での実施、一般社団法人SGSG×公民館「えーおとなコンテスト」の共催を行いました。

<https://www.city.okayama.jp/sdgs-esd/0000038657.html> (2023.11.09)

# みんなが先生!

## 募集中!!



あおもり市民リーグ

君の好きなこと、得意なことはなんですか？  
その楽しさや魅力をだれかに伝えてみませんか？  
「みんなが先生」になれるのです!!

テーマは問いません。.....たとえば...  
自分の好きなこと、得意なことについて、  
「先生」になって、ほかの人に教えてみませんか。  
「みんなが先生」講座企画書(裏面)に記入の上、郵送、メール、ファクスのいずれかの方法でお申し込みください。

※講座企画書の様式は、下記HPからダウンロードできます。

- ◆日本の旗 ◆カブトムシ
- ◆YouTube ◆ガンブラ
- ◆アゲセサリープづくり
- ◆丹阿彌 ◆おひな
- ◆本壺作り ◆縄文土器
- ◆サッカーワールドカップ
- ◆ケーキづくり ◆鉄道
- ◆お茶会 ◆お宝
- ◆トレカ ◆ラーメン
- ◆世界の道徳、高層ビル
- ◆手紙・マジック
- ◆イフスト などなど

きみが「先生」になる日は...  
**令和5年2月11日(祝・土)**  
冬のキッズフェア開催当日  
「みんなが先生!」ゼミナール  
場所:青森県総合社会教育センター

### 応募条件

- 《応募できる人》小学生、中学生、高校生  
※個人でもグループでも構わない。
- 《講座の時間》30分以内
- 《対象》大人、子どもを問わず誰でも受講できるものとする。
- 《内容》基本的に机の上で学ぶものとし、可能であれば簡単にできる体験的な活動を盛り込んでください。
- 《受講料》受講料、材料費等は無料とする。
- ※どうしても材料費がかかる場合は別途ご相談ください。

**応募〆切**  
令和4年  
**11月21日(月)**

- ◇受講者の募集は事務局が行います。
- ◇当日の会場設営、受付等は各自で行っていただきます。ホワイトボード(黒紙)は使えますが、パソコン、プロジェクター等については、各自で持ち込み、セッティングできる場合に限ります。(事務局では貸し出ししません。)
- ◇配布資料がある場合は、各自で受講者分を準備してください。(予め受講者数をお知らせします。)
- ◇終了後、アンケートにご協力ください。

### お申込み・お問い合わせ

青森県総合社会教育センター あおもり県民カレッジ事務局  
〒030-0111 青森市大字荒川字藤戸119-7  
TEL 017-739-0900 / FAX 017-739-2570  
メール: [alis02@iomon.ne.jp](mailto:alis02@iomon.ne.jp)

主催:青森県総合社会教育センター  
(講座運営:指定管理者:豊かな学びを育む青い森グループ)  
<https://www.manabi-aomori.com>



## コラム

[ 若者支援の現場から ]

私たち若者支援員が現場で会う子ども若者たちの多くは、様々な要因で学校教育を受ける機会を得られていない現状があります。そのような現状を補完する仕組みは未だ不十分であり、そうした中を過ごし社会へ接続できず孤立状態に陥る子ども若者たちが年々増加しています。

自分らしく生きていくために必要な学びを学校教育以外で得るためにはどうすれば良いかと考えた時に、その一つが社会教育ではないかと考えています。ではその社会教育活動の中心を担う公民館と子ども若者たちを繋ぐためには何が必要なのだろうか？共生と自治を学ぶためにはどうすれば良いのだろうか？日々私たちはこの大きな課題に向き合う必要があります。

公民館は物理的な場としてだけではなく、多様な人たちが集い繋がる場でなければならないと考えます。子ども若者の孤立を解消していくためにはどうすれば良いかを考えていくと、現代の分断された社会を編み直し、ともに生きる地域を再生させることと重なります。きっとそのためには現代の子ども若者のニーズを捉えた形での公民館運営が重要なのだと考えています。

特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク  
相模原エリア事業部 統括 雨宮 健一郎

## コラム

[ 学校の立場から ]

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の、学校や家での勉強や生活について尋ねる質問と回答の中で「今住んでいる地域の行事に参加している」の問いには、相模原市の6年生の約50%が参加していると回答し、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」の問いには、相模原市の6年生の約74%がしてみたいと回答しています。

小学校や中学校では、子どもたちの手で行事やイベントを企画したり、運営したりすることもあります。限られた時間の中で企画内容について決定し、準備を進めていくためには、子どもたちが安心して活動できるような状況を私たち大人が作っていく必要があります。時には意見を交わす中でアドバイスしたりしながらサポートし、見守っていくことで子どもたちは力を発揮してくれるのではないのでしょうか。みんなで何かをやり遂げることができた経験を積み重ねていくことで、自己肯定感や自己有用感も高まると考えます。子どもたちが公民館でのイベントの企画や運営に携わる経験は、小学生や中学生にとって、とてもやりがいを感じることもできる経験となることでしょう

相模原市立串川小学校 校長 奈良田 久



いま、子どもたちの「居場所」っていう言葉を聞くね

公民館って子どもの居場所になっているのかな  
夏休みの学習室開放や 子ども食堂はやっているけど  
安心して行かれる場所だとよいけれど

だから…

## もっと子どもたちが安心できる居場所になる公民館

居場所ってスペースだけではなく  
そこにどんなおとながいるかが大切ですね。

赤磐市の事例



**子ども支援  
スキルアップ講座**

主催  
一般社団法人子どもの家運営委員会  
赤磐市山陽4丁目8-19  
TEL086-954-4844  
火・木・金 15:00~18:30

日時 いずれも月曜日 19:30~21:30

①6/19(月)「あなたは大切な人」ということを  
どう伝えますか? 山下明美

②6/26(月) 赤ちゃんはコウノトリが連れてくる? 山下明美

③7/10(月) 発達障害の特徴 伊藤千春

④7/17(月) 子どもの声なきSOSを  
受容傾聴するには 山下明美

⑤7/31(月) 子ども・保護者への対応 山下・伊藤

講師紹介  
山下明美 CAPプロジェクトおかやま  
伊藤千春 就労移行支援事業所サンソレイユ

場所 高月公民館 美術工芸室 赤磐市穂崎848-1

定員 20名(定員になり次第 締め切ります。)

受講料 各回1000円 学生500円

対象者 子ども支援に関わっている方、子ども支援に興味のある方

申し込み方法  
なるべくメールで 氏名・電話番号記入の上、お申し込みください。  
E-mail [kodomonoie@chic.ocn.ne.jp](mailto:kodomonoie@chic.ocn.ne.jp)

「子どもを支援したい」「子どもに居場所を提供したい」と思っている人や、すでに子どもたちを支援しているおとなの人たちが、さらに子どもを理解する学びの機会もあると良いです。

子どもに関わる様々な立場のひとが学び合う機会を公民館に提供してもらえると良いですね。

それから…

## もっと色々な世代が交流できる公民館

こんな事例も… 石川県 多世代と一緒に公民館で合宿(デイキャンプ)

### 148 春休み宿題合宿

実施主体	能登島地区社会福祉協議会 七尾市能登島公民館		
活動期日	平成 29 年 3 月 26 日	活動場所	能登島地区コミュニティセンター
参加者	能登島小学校生徒、保育園年長児（4月入学予定者）		
連携団体	能登島小学校、能登島地区民生児童委員、能登島老人クラブ連合会		
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年長児においては、翌週に控える入学を前に、先輩小学生との交流を図る。</li> <li>・小学生においては、家では進まない宿題を友達や地域の大人と教え合いながら進める。</li> <li>・地域の大人（民生児童委員、老人クラブ会員）においては、認知症予防も含め、脳の活性化を図る。</li> </ul>		
活動の概要	<p>○地区社協と公民館共催で、小学校を通じて配布したチラシで応募してくれた生徒約20名と、地域の大人と一緒に宿題に取り組んだ。</p> <p>○入学を控えた園児はひらがなの練習や折り紙、温泉たまご作り、小学生は低・中・高学年でそれぞれテーブルに分かれて宿題を実施。地域の方々も混ざり、同じ問題に取り組んだ。</p> <p>○昼食に皆でカレーライスを食べ、親交を深めた。</p>  		
連絡先	七尾市能登島公民館 ☎0767-84-1110		

石川県教育委員会「地域と学校が連携・協働した実践事例集（平成 30 年 3 月）

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kyoiku/syougai/documents>

</tiikitogakkougarennkeikyoudousitazissennzireishuu.pdf>

(2023.11.15)

### 相模原市内の子ども食堂



田名公民館	まほろば食堂 「たな」	清新公民館	デニム kids 食堂
	みんなよっといで！たな食堂	大沼公民館	にこカフェ
陽光台公民館	みんなの居場所 ようこうだいパブリカ	小山公民館	だれでも食堂フルーツポンチ
中央公民館	みんなの食堂 ふじみ	大野台公民館	あんチョコミックス【大野台】
	子ども食堂 ちゃお	大野中公民館	あんチョコミックス【大野中】
津久井中央公民館	津久井こども食堂	東林公民館	くぬぎこども食堂
光が丘公民館	光が丘こども食堂 ピカリカフェ	大野南公民館	ひばり食堂
城山公民館 (他)	城山子ども食堂 ころもで	麻溝公民館	あさみぞふれあい夢広場
相原公民館	Kid's cafe Forest	上溝公民館	上溝にこにこ子ども食堂
上鶴間公民館	かみつるまひまわり食堂		

子ども食堂の詳細な活動日や内容は相模原市子どもの居場所ポータルサイトからどうぞ。

<https://www.sagami-portal.com/city/kodomo-ibasyo/archives/category/kodomo-syokudo>

(2023.11.29)

## コラム

[ 多世代がひとつになる場作り ]

西の空が茜色に染まる夏の夕暮れ時、山あいの中学校のグラウンドに盆踊り用の三層のやぐら、それを囲むように紅白の幕と提灯の灯り、そして、十数点の夜店のテントが設けられています。

夏祭りの開会を知らせる花火の音、太鼓の響き、浴衣姿に団扇を手にした老若男女の姿、これから夏祭りの楽しいことが始まるぞという予感がかき立てられます。

この夏祭りは、地域の人や里帰りの人が毎年待ちに待っているもので、地元のあるさとづくり協議会が年齢や立場を超え、多世代がひとつになれる場作りをコンセプトにして実施し、今年で25回目を迎えました。

子どもの体験活動は、大人からの見守りによる安心感のもと、人と人とのつながりの大切さを学び取る絶好の場になっています。

子どもを大人の輪に加えて、一市民としてどう成長していくか見守り見定めていくのは、我々大人の大切な役目だと考えます。地域の子どもにぬくもりのあるふるさとを守り伝えていきたいという主催者の思いが、今や確実に安定感を増しつつ世代の好循環がなされているのを感じます。

更に、公民館が核となり、このような幾多の類する地域活動をもとに人財の交流や叡智<sup>えいち</sup>の交換を通して「ありたい地域の姿」の未来像を描き、それに向けてのプランづくりへと展開される仕組みをつくると、活動は一層深みを増し、持続性も強まるものと期待が膨らんで来ます。

特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら 副代表理事 小林 政美



急に時間が空いたときとか  
申し込まなくても気軽に参加出来る講座が  
あったらいいな



アンケートから  
どのような開催の在り方だと参加しようと思いますか。

同じ内容を異なる日時、曜日に開催していて選ぶことができる	29.9%
申し込みが不要で、当日の開催時間内、定員内なら自由に参加できる	11.4%
「30分講習会」のように短時間の催し	5.3%

だったら…

## もっと気軽に参加出来る催しが沢山ある公民館

ちょっと立ち寄って面白そう、と参加出来たり、複数の時間帯から参加する回を選べたり。  
そんなニーズも増えています。

自分ではやらなくても、人が作っているのを見て楽しむ「観る参加」が出来る講座があることも  
もっとみんなに知ってもらえると良いですね。



これまでの催しの運営方法をちょっと見直して  
「スキマ時間に公民館で学ぼう」なんてキャッチ  
フレーズで、各公民館が工夫を凝らした催しが  
実施されると、公民館の利用者が増えていくの  
ではないでしょうか。



こんな事例があります。

青森県 五戸町立公民館 2022年実施

<div style="display: inline-block; border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 5px; color: orange; font-weight: bold; font-size: 1.2em;">11/23</div> <b>第8回 1dayキャンパス(対象:幼児・小学生&amp;保護者)</b>		
午前の部 10時～12時 午後の部 1時～3時 五戸町立公民館小ホールにて 工作・クラフト・実験を楽しむ一日♪ 見学のみもOK あそびに来てね！		
		
① 糸掛け曼荼羅:渡部靖之氏 1回目は10時～ 2回目は13時～ 各6名 材料代500円 製作時間2時間 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">事前予約</div>	② プラコップヘリコプター: 名久井正廣氏 30名まで 材料代100円 製作時間20分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">当日OK</div>	③ 飛び続けるグライダー: 名久井正廣氏 30名まで 材料代50円 製作時間10分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">当日OK</div>
		
④ どんぐりトトロ:新藤幸子氏 16名まで 材料代150円 製作時間15分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">当日OK</div>	⑤ ビー玉万華鏡:松延康氏 10名まで 材料代300円 製作時間20分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">事前予約</div>	⑥ 電気分解プレート:松延康氏 20名まで 材料代500円 製作時間30分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">事前予約</div>
		<div style="background-color: yellow; padding: 5px; border: 1px solid black; margin-bottom: 5px;"> <b>注意・お知らせ</b> </div> 事前予約が必要なコーナーがあります。 定員になり次第締切ります。 <b>予約〆切日:11/15</b> 
⑦ カード作り:沢田久美子氏 15名まで 材料代500円 製作時間20分 <div style="text-align: right; background-color: yellow; padding: 2px;">当日OK</div>	★無料★コーナー 松ぼっくりツリー、アルギン酸ビーズ 自由にお作りおみやげとしてお持ち帰りください	

<https://www.facebook.com/aomori.attohome>

(2023.11.09)

公民館でどんな講座をやっているか  
よくわからないよね



自分に興味がある内容なのか、どんなレベル  
なのか、先生はどんな人なのかがあると  
参加しようかなって思うかも

だったら…

## もっとPRしようずな公民館

広報や公民館報は、興味を持っている人は見るけれど、今は別の媒体から気軽に情報を得たいと  
思っている人が多くなっていることがアンケートからもわかりました。

SNSをもっと利用して「新しい情報」「親しみのある情報」をこまめに発信することが求められてい  
ますね。

それぞれの公民館で「インフルエンサー」を見つけたり  
育てたりして、情報発信してもらうことも考えてみては  
いかがでしょう。

参加者の声を知りたい人も多いから、相模原の公民館の  
HPに「講座クチコミサイト」を作るなんてできないかな。



アンケートから

どのような媒体で催しの情報を得られると良いと思いますか

LINE (ライン)	42.8%
広報さがみはら、地域情報紙等の紙媒体	18.1%
X (旧 Twitter = ツイッター)	10.3%
市ホームページ	10.3%
Instagram (インスタグラム)	6.2%
Facebook (フェイスブック)	2.1%

どのような情報があれば親しみを感じ、参加意欲がわきますか

催しの風景	38.7%
参加者の声	28.0%
作品の難易度	25.5%
作品の完成例	4.5%
その他	3.3%



日本語があまり得意じゃないから  
公民館って行きにくいなあ



色々なひとが気軽に立ち寄れる  
そんなスペースがほしいね

それなら・・・

## もっと色々な人が気軽に立ち寄れる公民館

申し込み無しでこんな催しがあったらいいね。

[ 月1回の〇〇語ひろば ]

相模原市内に住んでいる日本語以外の母語の  
方々の言葉だけで過すひろばのような時間を  
月に1回でも開いてみてはどうでしょう。



[ 初めてさんも、得意な人も一緒に手話で話そう ]

教室や講習会ではなく、手話でおしゃべり会を開いてはいかがでしょうか。  
聴覚に障がいがある人もそうで無い人も、ここでは手話でおしゃべりをする広場のような催し。

昨日観たドラマのこと、困っていること、楽しいこと、声を出すコミュニケーションとは違う、楽しさ  
がありそうです。

そうそう、手話だったら、静かにしないといけない場所でも  
こっそり恋バナなんかができたりする…かも？



## [ いろいろな言葉でボードゲーム ]

いつもなじみのボードゲームや、国や地域によって違うボードゲーム。

今日は中国語、今日はポルトガル語、  
今日はシンハラ語(スリランカの言葉)で遊ぼう…  
そんなゲームのつどいがあると良いですね。



ゲームを囲むと言葉がわからなくてもコミュニケーションできるし、ちょっとした言葉を覚えられるかもしれません。

なにより、外国につながる人が公民館にもっと気軽に  
に来てくれるきっかけになるかもしれませんね。

## [ 自由な折り紙コンクール ]

ロビーに折り紙を置いておき、好きなように折って、持って帰っても良いし、飾るコーナーに飾っても良い。

教えられる人が時々居て、希望すれば教えてもらえたら、もっといいね。

そして、そんな作品を、毎月人気コンクールを試みるなんてどうでしょう？

### ヒアリング調査から

- ・ 公民館は学ぶところで公共施設だから、規則を守ることも大切な学びだけれど、半面どこか息苦しさを感し、足が向かないのではないかと思うことがある。  
気楽に足が向き、そこに相談出来る人が待っていて、活動できる場があり、学んだことを発信し、仲間と交流できる空間がある。そんな公民館であれば楽しいと思う。  
地域住民と同じ夢を持ち、夢の実現に向けて語り合いながら一緒に努力できる大切な場所にしたいと思う。



楽しい催しも良いけれど  
じっくり地域を知ったり、地域のことを考えたり  
そんな講座もあつたらいいね



地域のために何かしたいって思っている人は  
けっこういるよね

それなら・・・

## もっと地域を知って、地域を好きになるしかけがある公民館

### 事例

愛媛県西予市遊子川（ゆすかわ）公民館 の事例

遊子川地区は、四国山地に位置し、近年著しい少子高齢化・過疎化の影響に悩まされているところであるが、西予市遊子川公民館は、地域住民にとって身近な公的教育的場、相互教育的場、自己教育的場の中心として、各種団体との連携により、地域に根差した活動を推進している。

・地域住民自らが地域課題の把握と解決に向け、様々なテーマを設けて開催する学習会「夢かけるフォーラム遊子川」を27年間継続



- ・住民手作りの自主企画映画「食堂 ゆすかわ」を製作し、地域コミュニティの活性化地域のPRに成功



- ・地域の豊富な森林資源を活用した木製クラフトや特産品のトマトの加工品を開発。農家レストランや加工品販売にもつながり、法人化に発展

出典： 公民館の現状と課題 文部科学省生涯学習政策局社会教育課 過疎問題懇談会  
(平成29年10月2日) 説明資料 [https://www.soumu.go.jp/main\\_content/000513104.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/000513104.pdf)

【1 現状・課題】

- ある地域で、少子高齢化や人口減少社会の中でも、将来にわたって暮らしやすく、多様な世代が共感できる地域をつくるため、世代間の交流が必要と考え、地域の公民館主催のワークショップに参加した住民グループがまちづくりに取り組もうとしています。
- 地域の中学校では、生徒たちが将来のまちを考え、課題解決に向けた行動力を養う学習を進めています。

【2 地域におけるこれまでの取組内容】

- 中学生が中心となって、利用者が減少している街区公園でイベントを企画・実施し、子どもだけでなく大人、高齢者も楽しめる遊び場をつくるアイデアをまとめました。
- 公民館で活動する住民グループや地域団体の大人が中学生の思いに共感し、アイデアの実現をサポートしました。
- イベントでは、中学生は、保護者や親子連れがくつろげるよう、飲み物やおやつを提供するカフェを運営したり、小学生などの遊び相手になります。シニア世代は、手芸や紙芝居を披露したり、皿回しなどの遊びや工作の指導者となり活躍しています。

【3 行政等からの支援】

- 中学校から相談を受けた公民館が、ワークショップの開催などによって大人と中学生の連携を支援しました。
- 公民館が事務局となって地域活動への助成金※1や、学校や公民館による地域と連携した取組への助成金※2に応募し、活動資金を確保しました。

※1 (公財)ひろしま子ども夢財団の広島県子ども夢基金活動助成事業

〔助成対象〕 子どもに夢を与え、体験を促す活動を企画・実施する団体等

〔助成限度額〕 10万円

市社協のひろしまの地域福祉推進“チャレンジ応援”助成事業

〔助成対象〕 市域の福祉向上を目指して活動する非営利活動団体

〔助成限度額〕 30万円

※2 環境省の持続可能な地域づくりを担う人材育成事業、広島県公民館連合会の公民館等活性化モデル事業

【4 これまでの成果】

- 年4回開催されるこのイベントは、参加者が毎回 300 人を超えるなど地域に浸透し、高校生になったOB・OGも手伝うなど、多世代参加の地域づくりが進んでいます。
- 中学生が地域団体の主催行事を手伝うなど、イベント以外でも連携が広がっています。

【5 今後の更なる活性化のための取組の方向性】

- 共助の取組として地域では、遊び場づくりの担い手となる地域の大人の協力者の発掘や育成、活動資金の確保に取り組もうとしています。
- 公助の取組として行政等では、区役所が中心となって公民館などと情報共有を進め、地域団体と公民館で活動する住民グループとの連携や若い世代との交流、活動資金の確保に向けた助言などに取り組めます。

広島市地域コミュニティ活性化ビジョン

p.14

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/181272.pdf> (2023.11.10)

## そのほかの参考事例

- ・内閣府 若手公民館職員が若者を巻き込んだ事業の事例  
[https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/dansei\\_chiikisankaku/pdf/jirei\\_11.pdf](https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/dansei_chiikisankaku/pdf/jirei_11.pdf)  
(2023.11.15)
- ・札幌市 町内会に若者を巻き込むアイデア冊子  
「あたらしい町内会へ 若い人を巻き込む町内会づくり読本」  
わかりやすく参考になります。  
<https://www.city.sapporo.jp/shimin/shinko/chounaikai/hint/documents/atarashii.pdf>  
(2023.11.15)
- ・青森県生涯学習課「地域の思いをつなぐ」若者育成事業活動事例集  
<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-shogai/files/katudoujireisyuu.pdf>  
(2023.11.15)



学校と地域が連携したり、公民館と様々な機関や団体がつながったり  
おとなみんなで子どもの育ちを応援できるといいね



そんな取り組みをしている  
公民館があるけれど、もう少し  
増えたらいいね

## もっと学校とつながる公民館

第2次相模原市教育振興計画(令和2年3月策定)でも、子どもたちが体験活動や文化活動を通して、創造性や主体性を培い、豊かな心を育むことができるように、学校・家庭・地域住民等・行政が目標や課題を共有しながら、力を合わせ、オール相模原で地域教育力の向上を目指しています。

そのような中で、公民館にも地域と学校をつなぐ役割が期待され、色々な取り組みがされています。そんな取り組みがもっと広がると良いですね。

複数の学校とつながる事業例

東林公民館  
[とうりん コンサート]

令和5年度  
**とうりんコンサート**  
鼓笛隊・吹奏楽部が日頃の練習成果を披露します

令和5年 **12月2日(土)**  
午後1時~3時30分 (開場:12時30分)  
会場: 東海大学付属相模高等学校中等部  
3号館 5階 大ホール  
入場無料 定員400名(席の指定はありません)  
直接会場へお越しください  
出演: 東海大学付属相模高等学校中等部  
上鶴間中学校 / 東林中学校  
とうりん鼓笛隊 / 鶴の台フレンド鼓笛隊

- 駐車場はありません。徒歩又は自転車でお越しください。
- 学校敷地内ならびに近隣は、飲食禁止・禁煙です。
- 会場内土足禁止です。室内履き・靴入れをご持参ください。事業はやむを得ず、中止となる場合があります。

主催:東林公民館 主管:とうりんコンサート運営委員会

問合せ:東林公民館 ☎042-744-0087(月曜日、祝日の翌日を除く9時~17時)

## もっと 他の課や機関とタイアップする公民館

青少年相談センターとタイアップして、「チャレンジ教室」を支援するボランティアを育成したり、公民館で、子ども支援に関する講座を開いています。そこでしっかり学んだ人を社会福祉協議会の子どもの居場所関連ボランティアとして活動することにつなげることも。

相模原市内で子どもたちのために活動する人たちの、学びと活動をつなぐサイクルの中で、学びの部分を公民館が担えたら、相模原という地域全体で子どもたちの育ちを支える、素晴らしい営みにつながる気がしませんか。

### ヒアリング調査から

- ・共働きの保護者が増え、子ども連れで公民館事業に参加する人が減っている傾向もある。しかし、共働きだからこそ、自分自身の時間を持ち、安心して学べる時間が必要。そのためにも公民館保育がしっかりできるとそのような人たちがもっと参加できると思う。

公民館保育の保育者研修は、保育の部局から情報を得るなど他部局とつながりがあるとやりやすい。館長代理は市の職員なので他課と調整することができる。

## コラム

### [ 公民館はみんなの居場所 ]

公民館は地域の方々の大切な集いの場です。様々な文化・体験活動を通じて地域の方々が学び合い、語り合うことで親睦を深める憩いの場でもあります。

しかしコロナ禍やネット・SNSの普及によって社会全体が直接対面や移動することなく物事が済んでしまう時代となりました。しかし人と人とが顔を合わせて共に学び合い、共同活動を行っていくことで、コミュニケーション能力、地域愛を育てていくことができると思います。

今この時代だからこそ、公民館は子どもたちにとっての学び・憩いの場である「居場所」としての機能が求められると思います。

世代の枠組みにとらわれず、誰でもどんな時でも公民館に集って活動できる環境と雰囲気作りが必要だと思います。

地域ぐるみで子どもを育てるという共通認識を持ち、学校と地域と子どもたちを結び付ける「拠点」としての機能が発揮できれば、これからの公民館の新しい形となっていくと思います。

相模原市PTA連絡協議会 顧問 小泉 喜亮

人権とか、環境問題とか、防災とか  
大事な事も本当は学びたいな  
これまで講座やまつりなど、公民館事業に参加したことが  
ない人でも、社会的な課題の学習を望んでいる人も多いん  
だよ



だけど、「カタイ」講座って  
人が集まりにくいよね

アンケートから 講座やまつりに参加したことがない人がどのような内容に参加したいかという回答	
多様性の理解に関わるもの（文化、国・地域など）	31.7%
時事問題や社会問題（平和や経済、政治、貧困、食、気候変動など）	24.2%
人権に関わるもの（人権の尊重、差別の解消など）	9.6%

## もっと企画運営の切り口や方法を工夫する公民館

カタイテーマをカタイ言葉と専門家の講演で組み立てた講座では、たしかになかなか人は集まりにくいです。

でも、時事問題などに関心を持っている人たちは多いので、それぞれの関心について専門家を囲んで語り合ったり、参加型の学習で楽しみながらも深く考える内容にしたり、海外の遊びや料理を入り口にして、その国の文化や宗教、歴史等を知ったり、新聞記者から「昨日のニュースについて」紙面に収まらなかったことを詳しく語ってもらったり…

切り口や運営方法次第で面白い講座にできるはず。

そして、参加者数だけにとらわれず「どのような内容をどんな風に工夫して実施したか」や「参加した人たちがどのように学びを広げているか」などを評価する。そのような基準も作っていくことが大切かもしれませんね。

例えば、こんな動画を大学生や高校生と一緒に作る事業があったらいいですね。

「高校生がジェンダーについて日常で語り合う動画」

[https://www.nhk.or.jp/campaign/mirai17/mov\\_mewe\\_gen\\_der.html?fbclid=IwAR1vUJ743UrwQVwuolX\\_BvekUmxbl2wrxRaZZv2E2DCr\\_nkKY3R-rl0Vc14](https://www.nhk.or.jp/campaign/mirai17/mov_mewe_gen_der.html?fbclid=IwAR1vUJ743UrwQVwuolX_BvekUmxbl2wrxRaZZv2E2DCr_nkKY3R-rl0Vc14)

(2023.11.22)

[ 社会的課題の学習に取り組んだ事例 ]

## 2023年度 橋本公民館 成人学級 学級生募集!

### テーマ 人権を尊重し、持続可能な共生社会を考える

目的: 2023年度成人学級は、成人が家庭・地域および社会における様々な課題を共同で学習し、心豊かでゆとりある生活と、より良い地域社会づくりを目指すために開設します。

開催期間: 9月28日(木)から12月15日(金)までの全9回

～地域情報紙と社会見学の日が変わっています!ご注意ください!～

回	月・日(曜日) 開催時間	会場	学習内容	講師ほか
1	9月28日(木) 14:00～16:30	中会議室	開級式、オリエンテーション・自己紹介 相模原市の空き家問題について	相模原市住宅課
2	10月7日(土) 14:00～16:00	大会議室	【公開講座(予約不要で誰でも参加OK)】 ～核なき世界を願って～被爆者の声を聴く	相模原原爆被災者の会 会長 丸山 進さん
3	10月14日(土) 14:00～16:00	中会議室	核なき世界を考える～日本の原発回帰策とは?	東京経済大学 名誉教授 磯野弥生さん
4	10月28日(土) 14:00～16:00	中会議室	入管法(出入国管理及び難民認定法)と人権	暁法律事務所 弁護士 指宿昭一さん
5	11月11日(土) 14:00～16:00	視聴覚室	マイナンバーカードと個人情報	法政大学大学院 教授 白鳥 浩さん
6	11月17日(金) 9:00～16:00	社会見学	川崎市岡本太郎美術館 ～多面性のある太郎を知ろう～ (お弁当、入場料(1,000円)+実費負担200円=1,200円自己負担あり。当日集金)	バス見学
7	11月18日(土) 14:00～16:00	中会議室	津久井やまゆり園事件から障害者の人権を考える	津久井やまゆり園事件を 考え続ける会 杉浦 幹さん
8	12月9日(土) 14:00～16:00	中会議室	子どもの未来を考える 子どもの居場所づくり(14:00～14:30) 若者の非正規雇用がもたらすもの(14:30～16:30)	高見保育園 元園長 小川 富美枝さん まちだ・さがみ総合法律 事務所 弁護士 和泉貴 士さん
9	12月15日(金) 14:00～16:30	中会議室	相模原市の交通政策について 来年度の成人学級に向けて、閉級式	相模原市交通政策課

【会費】無料(社会見学の参加者は、食事代及び入場料(1,000円程度(予定))の自己負担のほか実費負担200円あり。)

【定員】30名(先着順) 【会場】橋本公民館(イオン橋本店6階)ほか 【持ち物】筆記用具

【申込み】9月9日(土)～先着順 受付時間は午前10時から午後5時まで

橋本公民館 TEL 042-771-1051 に電話又は窓口へ

注 10月7日(土)の公開講座は申し込み不要です。直接会場へお越しください。

※ 公民館に駐車場はありません。お車でお越しの場合は隣接する市営駐車場(有料)をご利用ください。

主催:橋本公民館 主管:橋本公民館成人学級運営委員会

お申込み・お問い合わせ:橋本公民館(電話 042-771-1051) 緑区橋本 6-2-1(イオン橋本店 6階)

## コラム

[ 公民館で学びの楽しさや仲間との出会いを ]

東京タワーが完成した 1958 年、相模原市で 4 つの婦人学級が開設されました。文部省（当時）委託の婦人学級が開設されてから 2 年目のことです。それから 10 年目には 4 倍を超える 17 学級が市内で開設されるようになりました。このように相模原の女性（婦人）学級には長い歴史があります。

1966 年に委託制度となり、市からの予算がついたことで、地域課題を生活の中で感じていた女性達が各々の地域で「よりよく生きる為に」共に学び、仲間と共にグループを作り、地域へと活動の場を拡げていきました。

私自身も 31 年前に相模原に越してきてから、公民館の女性学級で何年も学び、そこで出会えた仲間とは今でも活動を共にしています。

そして、20 年前からは、「子育て中の学びを保証」するために、公民館保育のスタッフとして女性学級に参加する親御さんのお子さん達をお預かりする活動を仲間と共にしています。

「学ぶ・出会う・繋がる」というのが公民館での学びだと思います。

知らなかった事を知ることで、今までと違う景色が見えてきて、何歳になっても新しい自分と出会い、そのことが日々の暮らしに活力を与えてくれます。

私が今も続けている活動のきっかけをくれた[公民館]や[女性学級]が、若い年代の方達にとっても学びの楽しさや仲間との出会いの場となるように願っています。

虹のおはなし会 代表 大橋 千景



じっくり企画を練ったり  
来館者と丁寧に話しをする時間が欲しいな  
by 公民館職員



登録団体や、利用者が多い公民館の職員は  
時間に追われがちだね

## もっとゆとりある働き方ができる公民館

各地域に公民館があるのは相模原の良さです。そして、その地域に住む人たちが運営に関わっている良さがあります。しかし、普遍的な課題を取り扱ったり、地域の人たちや若者のアイデアを実現したりするためには、職員が丁寧に関わることが大切なので、公民館職員の皆さんは事務作業と事業企画、専門部や実行委員の皆さんとの話し合いでとても忙しい。

余裕を持って来館者と接したり、丁寧に準備をして事業の計画を練ったり・・・  
そのようなゆとりがないと、良い公民館運営につながりづらくなりますね。

来館した市民との何気ない会話の中から学べる事や事業のヒントをもらえることがあるし、職員同士がお互いの事業について話す時間が増えれば、先輩から学べることもたくさんありそうです。

そんな時間を作り出せるしくみが、考えられると良いですね。



### ヒアリング調査から

- ・高齢化が進み、若い人が住まない地域同士で共通のテーマを合同で開催して、職員不足を補い合うという考え方もあるのではないかな。
- ・地域固有の課題や内容と IT 関係を整理する必要があるのではないかな。IT 的なものは複数館を集めて専門スタッフを増やす必要がある。
- ・若者講座については、学生等が休みの土、日、夜間に実行委員会を開催。しかし実行委員会の委員を集めることがなかなか難しくなっており、1 公民館として取り組むことが困難。勤労者向けの講座や、若者講座は複数の館で協力し合って実施することも考えてはどうか。
- ・地域住民の方の熱心な取り組みが前提ですが、住民と一緒に、真剣に議論し、一生懸命支える専門的な職員の果たすべき役割も非常に大きいと考えています。ベテランに遠慮せず発言しやすい雰囲気づくりと、職員を育成する仕組みが必要だと思います。

相模原には色々なことができたり、色々な技術があったり  
色々なことを知っている人がたくさん居るよね  
そんな人たちって活躍しているの？

そういう宝物のようなひとを「人財」って呼んだりするよ  
でも、宝探しみたいになかなか見つからなかったり  
見つかったも活かす機会がなかったりするんだって



## もっと 地域の人財が輝く公民館

[ 人財登録や活用のしくみを工夫 ]

ひとつの館だけでなく、区のブロックごとの公民館で共通の人財バンクをもち、バンクに登録した方に向けて、年に4回ほど生涯学習課主催で「公民館で講師をするために」というような30分ほどのミニ講座を、全市共通でオンラインを活用して実施してはどうでしょう。

自分が教えられるプログラム案を全市共通のフォーマットで作り、それを講座終了後に出してもらい、「プログラムと人財のセット」がどの公民館からもオンラインで見られるようなしくみもあったら良さそうですね。

## もっと 学んだ成果を地域の中で活かす機会をつくる公民館

相模原の公民館活動が成熟してきていて、これまでに学んだ成果を活かしたいと思う人や、これまでの仕事などで得たスキルを誰かの役に立てたら良いな、と思っている人はたくさん居るようです。

そんな方たちに、スキルや知識をブラッシュアップする学習機会を提供して、修了者の方々が講師や学習支援者として公民館で活動できるような機会がもっと増えると良いですね。

今、私たちは人類史上最も多様な年齢社会に生きているといわれます。

経験豊かな高齢者やおとなたちが、知識やスキルを活かし、若者とつながりをもって、より良い未来を共創するための機会が公民館から始まると素敵ですね。

## コラム

[ 学んだ力で保護者の笑顔を増やしたい ]

2020年から相模原市でスタートした「発達サポート講座」この講座を通して、子どもたちの発達の多様性を学び、個々に持っている特性に対しての支援の方法を学んでいます。

講座を修了された方に、「学校サポーター」になっていただき、子どもたちに寄り添っていただいています。この学びをさらに多くの方々に知って頂きたい、繋げていきたいとずっと思っています。

各地区にある公民館で、学んだ方にファシリテーターとなっていただき、子育てに不安を抱えている・お子さんの行動が理解できない・・・等、悩んでいる保護者と「子ども理解の学びの場」を開催できれば良いなあ、と。

「子どもたちの行動には必ず理由がある」その理由を理解するための学びの場を公民館で実現できればと願っています。

こども家族早期発達支援学会 事務局長 若林 由美

## コラム

[ 幸福になるための方法 ]

幸せであることは誰もが望むことでしょう。

では、幸福に重要なのは何だと思えますか。お金、仕事、成功、健康、どれも大事に思えますね。心理学の研究をみると、幸福感と最も関係していたのは人間関係という結果でした。海外の研究ですが、幸せになりたいなら1日あたり7時間くらいは人と交流する必要があるとさえ言われています。

仕事に忙しかったりすると難しいと感じてしまうかもしれません。自分や家族の幸せのための長時間仕事をして人と交流できないとしたら逆効果なわけです。また、一人暮らしの場合も人との交流ができにくいかもしれません。

その解決策の一つとして公民館を活用するのはどうでしょうか。公民館に立ち寄ってちょっとお話するだけでも良いですし、イベントに参加する、イベントを開催することもできます。自分の持っているスキルや経験など、あなたの持つ強みを活用してみる、誰かに伝えてみてはどうでしょうか。強みの活用もポジティブ感情の体験につながり、幸福感を感じやすくとされます。

強みを見つけることが今すぐは難しいと思っても、人と交流していくことは自分の強みの気づきにつながるものです。せっかく近くにある公民館、幸福感の向上につかってみるのはどうでしょうか。

桜美林大学 教授 石川 利江

公民館に専門部ってあるんだって？  
どんなことをしているの？  
どんなひとになるの？

公民館の講座などの企画や運営をしている地域のひとたちで、自治会から推薦されたり、公募する公民館もあるんだってでも、なる人が少ない公民館もあるらしいよ  
やってみるとやりがいがある、っていう人も多いけどね

専門部とは・・・

専門部は、相模原市公民館の歴史の中、住民の考えを公民館の事業に活かしたり住民が主体になって公民館を運営したりすることで、よりよい公民館活動になることをめざして組織されました。多くの住民が参加することで発展してきたしくみです。

公民館によって、少しずつ違いますが、体育部、青少年部、文化部、広報部などがあり、地域の特色を活かして事業の企画や運営をしています。

## もっと色々な人が企画に関わる公民館

専門部って素晴らしい活動だけれど、仕事を持ちながら続けているメンバーの負担が大きかったり、同じ顔ぶれだとなかなか新しいアイデアが浮かばなかったり、新しい企画に取り組んで、人が集まらなかったらどうしようと冒険しづらかったり・・・苦労することもあるようです。

新たな人員を取り込むにはどうしたら良いでしょうね？

専門部の委員を公募している公民館への  
ヒアリングから・・・

各専門の委員を自治会推薦でなく、館報や地域の回覧で広く公募している。そうすると若い人も入ってくる場合がある。

若い人が入ると周りの人たちが「自ら模範となろう」と意識して、変わってくるので、もっと若い人が増えると良い。

ただ現在の学生は授業とアルバイトで忙しいので、最初は顔合わせで集まるとしても、その後は授業の合間にズームで打ち合わせる場合もある。若い人に参加してもらうには、今のやりかたでの工夫をすることも必要だと思う。



企画アイデアを公募して、アイデアを出した人たちを中心に実行委員会を組織して実施する、という事例もあります。

その事業のためだけなら集まって運営できるよ、という人も地域の中にはいそうです。そんな事業をもう少し増やしてはいかがでしょうか。

## [ 地域の方たちの企画による事業の事例 ]

### 大野北公民館 はやぶさ塾

市民の自主企画提案事業として、はやぶさ塾を開設しています。

館区内の在住・在勤・在学の個人、または構成員の過半数が館区内に在住・在勤・在学する団体が対象です。

事業開始時期の6ヶ月程度前に、開設を希望する方にむけて公民館報で広報し、「自主企画提案事業(はやぶさ塾)開設説明会」を開き、出席を呼びかけています。

注: 自主企画提案事業は他の公民館でもやっています。  
詳しくは各公民館におたずねください。

### はやぶさ塾 事業例

大野北公民館自主企画提案事業「はやぶさ塾」

人と人をつなぐ「聴く力・訊く技術」(全4回)

日時 令和5年4月21日、4月28日、5月12日、5月19日  
いずれも金曜日 午前10時～正午

場所 大野北公民館3階 工作室

講師 穂田照子 元大学教授

対象 大野北公民館区在住の16歳以上の方

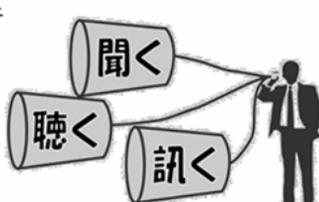
定員 24名(全回参加可能な方優先)

参加費 100円(資料及び演習用プリント)  
※参加費は初回に集めます

持ち物 筆記用具、水分補給用の飲み物

申込期間 3月24日(金)～4月14日(金)

申込方法 公民館窓口またはお電話で(大野北公民館 TEL:042-755-6601)  
※月曜日および祝日の翌日は除きます  
※受付可能時間は午前9時～正午、午後1時～5時です。



大野北公民館自主企画提案事業「はやぶさ塾」

初心者向け☆やさしい健康ヨガ教室(全3回)

日時 令和5年10月12日、10月19日、11月9日  
(全3回、いずれも木曜日、午前10時～正午)

場所 大野北公民館3階和室

講師 山口 美幸(全米ヨガアライアンス RYT200)

定員 12名(申込順) 参加費 無料

対象 大野北地区在住・在勤・在学の成人(18歳以上の方)

持ち物 ヨガマット(またはバスタオル)、水、フェイスタオル、筆記用具

申込期間 令和5年9月14日(木)～10月5日(木)

申込方法 公民館の窓口またはお電話で(TEL 042-755-6601)  
※月曜日および祝日の翌日は除きます  
※受付可能時間は午前9時～正午、午後1時～5時です。



## コラム

[ 若い世代の笑顔と力で 楽しさの連鎖 ]

親子全カクラブは、小学生を含む親子での参加で、大人も子どもも関係なく全力で楽しむ企画です。

子どもや若い世代に「もっと公民館を利用してもらい地域を盛り上げていきたい。」そんな気持ちから始まりました。

行事の一例としては、博物館の先生と一緒に河原探検をして石を見つけ、どこから流れてきたのかを探ったり、焼き芋をすることを目的にサツマイモの苗植えから始めたり、夏祭りを企画して、それぞれのグループで屋台をだしたり、皆で小学校の校庭を走り回ったりなどなど。

地域内にある4つの小学校の学年も違う親子(家族)ですが、幼児から大人まで、自分のできることを率先して楽しそうにやっている姿がとても印象的です。

回を重ねるごとに、それぞれの得意なことが見えてきたり、家族ぐるみで仲良くなったりすることで、リーダーシップを発揮してくれる子どもたちの姿も見られます。

一緒に楽しく作りあげることから、お父さんやお母さんが他の公民館事業への協力に率先して手を挙げてくれるなどの成果が得られています。

こうした流れが、また次の新しい企画に繋がっていく期待と予感でワクワクしています。

若い世代の笑顔と力が、地域にたくさんあることを強く実感しています。

大沢公民館「親子全カクラブ」実行委員会 実行委員長 笹野 和子さん

実行委員会形式で  
事業を実施した例

「大沢公民館  
遊ぼうぜ 親子全カクラブ」

大沢公民館全力事業

前のめりに楽しもうとする「親子全カクラブ」第2弾!  
親子による親子のための遊び・学び・絆が深まる時間

募集: 親子18組(完着) 大沢小・大島小・作の口小・九沢小の児童とその親

場所: 大沢公民館ほか、大沢小学校校庭・上大島キャンプ場など

時間: ①～⑦ 9:30～12:00 内容により変動あり  
⑨～⑪ 13:00～15:00 ※夕涼み会とお月見は18:00～

参加費: 全回で1人1000円 同行の未就学の弟妹は無料

原則、全部に参加するぞ!  
という親子

# 遊ぼうぜ

# 親子全カクラブ

①5月7日(日) ②5月21日(日) ③6月18日(日) ④7月22日(土)

⑤8月20日(日) ⑥9月17日(日) ⑦9月23日(土) ⑧9月29日(金)

⑨10月22日(日) ⑩11月5日(日) ⑪12月9日(土)

十五夜のお月見

けん玉達人  
がやってくる!

夏まつりだよ!  
夕涼み会

レッツゴー!  
河原探検

全力  
クリスマス

甘～い  
フルーベリー  
祭り

苗植え  
つる返し～芋掘り  
石焼き芋

申込期間は以下ですが先着18家族です  
 4月15日(土)～4月22日(土)

大沢公民館窓口にて受付  
 (平日9～17時、ただし月曜と昼12～13時を除く)  
 042-762-0811 担当 あもろ

## コラム

[ 自分たちの企画が形になる喜び ]

星が丘公民館学習文化委員会は、市内他公民館でいう「文化部」に当たるもので、昭和 33 年に公民館が設置されて以来活動しています。

現在 7 名の委員で活動しており、講座やコンサートなどの企画と運営を、すべてボランティアで行っています。

会議は先輩委員がおっしゃっていた「世間話から光るものが出てくる」の言葉を心に留めながら進めています。まずは委員さんの好奇心が動いた事柄をきっかけに、話し合いが始まります。地域の方々に興味や関心を持ってもらうような企画を念頭に置き、楽しく話し合いながら、公民館事業を企画しています。そして、予算との兼ね合いなどを考えながら、事業が実施できるように進めています。

ただどうしても、委員だけでは手が足りなくなってしまうことが出てきます。そんな時は、地域の方々に手伝ってもらっています。声をかけると快く手伝っていただけるので心強く、また気軽に講座にも参加してもらえるので、一石二鳥です。

学習文化事業は、自分たちで企画したものが形になり、地域の方々が喜んで参加してくれるところに、楽しさとやりがいを感じています。9 年前の成人学級で、職員さんに声をかけられて、学習文化委員会に参加をしました。これまでいろいろな事業を行い、委員長になって 5 年が経ちます。これからも、たくさんの方に講座に参加してもらい、楽しく学んで欲しいです。また、参加された方々に声を掛け、少しでも学習文化委員会に関心を持ってもらうように、そして委員会に参加してもらうよう、働きかけていこうと思っています。

星が丘公民館 学習文化委員会 委員長 坂井 由美子 さん



\*\*\* そんな「もっと」をかなえるために \*\*\*

社会教育委員会議 議長 古矢 鉄矢

もっと〇〇〇に何を入れようか。「親しみのある」「チャレンジする」「気軽に参加できる催しが沢山ある」「PRしようずな」「色々な人が気軽に立ち寄れる」「地域を知って地域を好きになるしかけがある」……。

未来の公民館の姿を思い描いてこんな言葉を入れてみましたが、皆さんは何を入れてみたいと思いますか。素敵な言葉をあてはめて、楽しくてためになりつながり合える公民館にできると良いですね。

## 〔 拠点公民館という考え方 〕

未来の公民館に近づけるひとつとして「拠点公民館」という考え方があります。公民館職員の集まりや研修会などでも話題にのぼります。その考え方を紹介しましょう。

相模原市内には32の公民館があります。どの館も地域の住民が主体となって運営しています。地域の伝統文化や芸能を演じたり、郷土料理を作ったりとさまざまな体験ができる機会を育てています。住民の生活に根差した居場所となっているのです。他の市町村では、どこか一か所に中央館として機能を集中させる形態もみられますが、相模原市では地域に溶け込み住民の生活に沿って活動する地域密着型をとっています。それぞれが同じ機能を持ち合わせているために独立館とも呼ばれたりします。

各館が同じ機能を発揮できれば良いのですが、立地条件や人口分布に左右され、かぎりある職員体制(基本4名)の下では同等の取り組みができるとはいえません。そこで目指す方向のひとつとして、その館の「強みを生かす」「特色を発揮する」ことがあげられます。たとえば「勤労成人向け事業に力を入れる」「若者向け事業を多く実施する」などで皆さんの参加意欲に応えていく。館の独自性をアピールすることにもなるでしょう。

目指す方向の二つ目は、「単独の館では取り組みづらい内容について複数館が合同で企画運営し、事業内容に合った館を選んで実施する」こと。たとえばSDGs や人権、平和、共生社会、男女共同参画などの現代的社会的な課題について協働で取り組む方法です。公民館が行う「子どもの権利講座」には多数の皆さんが参加します。参加者の意識の高さを現しています。しかし一方で、これらの課題については公民館職員の皆さんも重要なことは理解しながらも、なかなか事業化できにくい、意識が向けにくいといった傾向がアンケート結果にも現れています。単独ではなく複数が協働すれば実現すると期待もふくらみます。その際には、生涯学習課の社会教育主事がコーディネーターとして力を発揮していただくことも考えられそうです。また社会福祉協議会や民生委員児童委員協議会との連携や協働も考えられて良いでしょう。

## 〔 育ち合う公民館職員 〕

地域を良くしたいと意気盛んな公民館職員はどのようにして育つのでしょうか。市民と心を通わせながら取り組む姿。公民館同士の取り組みから学ぶ姿。先輩職員の教えを次世代につなぐ姿。三方向からの姿をヒアリング調査から拾ってみました。

### 〔市民と一緒に〕

「高齢者のファッションショー:みんなでほめちぎる。身だしなみに気を配る。『100まで生きたい』などの感想が得られた」

「子どもたちの願いや望みをもとに大人実行委員とともに計画を練り上げ、実施する」

「準備委員などで計画を練り、外部講師を呼ぶのではなく、時には準備委員が講師になったり、地域の中で講師になれそうな人を巻き込んで事業を実施したりした」

「里山を守る地域を自分たちで守るという心を育めたらという思いを込めて、企画をしている」

「公民館で多様な人が関わっている姿を来館者、特に子どもが見ることで地域の中でインクルーシブな見方が広がっていくと考えている」

「地域の人が公民館の事業に主体的に関わり、自分のこととして様々なことに対処していく姿に尊敬の念を覚えます」

[ 公民館相互で ]

「全市で行う館長会議で他の公民館での学級や講座の情報はとても参考になります」

「館区を超えて誰でも助け合う防災意識を高めていく市内公民館交流事業を行っていきたい」

[ 先輩から学ぶ ]

「公民館職員の果たすべき役割は非常に大切だと感じています。このため、職員に対して、また職員間において、事業の取り組み方や考え方等について意見交換をしています」

「25年地域活動をしている館長が地域団体との間で作っている関係や情報を、館長代理や職員が共有して次の職員につないで対応力を担っていく」

[ 評価の基準 ]

評価というと堅苦しく感じられて思わず身構えてしまいますが、学校はもちろん社会のあらゆる場面において普通に行われ、なくてはならない「振り返り」と考えれば堅苦しさも少し和らぎます。何でもやりっぱなしにしておく訳にはいかないからです。

評価のありようはいくつかに分かれます。実施者にフォーカスを当てると、反省も含めた「自己評価」と、第三者の目で客観的に診断する「他者評価」に分かれ、評価の対象にフォーカスを当てると、量の側面からみる「定量評価」と質の側面からみる「定性評価」に分かれます。

また、取り組みの過程にフォーカスを当てる「プロセス評価」、取り組みの結果生み出された成果物(もの)にフォーカスを当てる「アウトプット評価」、取り組みの結果もたらされた効果や影響にフォーカスを当てる「アウトカム評価」という尺度もあります。

さまざまな報告書でよく目にするのは何回実施したか(回数)、何人参加したか(参加者数)。どうして参加したか(動機)、参加してどうだったか(満足度)などです。回数や参加者数の増減は、取り組みの外面を写し出し、動機や満足度は参加者の内面を写し出します。いずれも取り組みの結果を量と質から浮き彫りにする指標です。

しかし、そこにとどまっていて良いでしょうか。その取り組みがどんな波及効果をもたらしたのか。量的な外面や個人の内面を超えたグループ全体への広がりというか、社会への影響といった側面も知りたいと思いませんか。もっと〇〇〇指標があってほしいですね。

たとえば、「互いの考えが違っていても相手を尊重する態度が大事という思いが増した」「他の人とつながり合えるすばらしさを知った。これからは自分が企画実施しようと思う」「生命の誕生は奇跡。あらためて生命の尊さに感動した。みんなに話したい」「資源の無駄使いをなくそうと心がけるようになった」「自分ができることは何だろうかといつも考えるきっかけを与えてくれた」「子ども食堂の取り組みに加わるようになった」。

これらの講座参加者の感想から「意識が変わった」「感動を味わった」「行動的になった」「学んだことが実践につながった」「日々の生活が変わった」「思いを共有する仲間が増えそうだ」などが見て取れます。取り組みが個人の枠を超えて地域社会に影響を及ぼす、アウトカム評価の好例になっていることが分かります。

[ 研究調査報告書について ]

[ まとめた経過 ]

この報告書をまとめるのには4年間を費やしました。報告書は、社会教育委員の任期に合わせて2年間でまとめ上げるのが慣例ですが、その倍の期間かかってしまいました。令和2(2020)年初頭から猛威をふるった新型コロナウイルス感染症の影響です。

緊急事態宣言とまん延防止措置が繰り返し発出されて、会議のために集まることすらできない。やっと集まれても7か月後、10か月後と飛び飛び。貴重な時間も記憶を思い起すうちに終わりに近づ

き、なかなか前に進めません。もどかしい思いばかりがつのります。生物とも無生物ともつかない極微細なウイルスにふりまわされて手も足もでない。まるで「だるまさん」です。

研究調査は令和2(2020)年2月からとりかかりました。感染症流行の時期と重なります。前半2年間のうち開催できた会議は4回。そのほとんどを意見の交換にあてました。それらの意見が集約されて、提言をまとめる上での3つの柱(考える視点)となり提言の主題(テーマ)へとつながっていきます。出された意見をノートから拾い、議論の積み上げの経過をたどってみましょう。

## [ 前半2年:令和2(2020)年～令和3(2021)年 ]

令和2(2020)年2月12日

- ・若者に来てもらえ、次の世代にバトンの受け渡しができる場になると良い。
  - ・いきがい作りやつながり作りの場でありたい。
  - ・足を運びにくい雰囲気をつくすには若い人が輝ける状況を作る。面白い楽しいと感じること。
  - ・報告書がどのように生きるのだろうか。地域活動の方法が子ども達にも分かるように。突破口となるようなものにしたい。
  - ・大人が学ぶ姿を子どもに見せる場であると良い。
  - ・若者にとって公民館は高齢者のものというイメージの払拭ができるとうよい。
- キーワード:いきがい作り、気軽に立ち寄れる、集いの場、面白い、楽しい、見せ方、次世代への継承

令和2(2020)年11月16日

- ・公民館で学習教材を作っていく。オンラインでもできる学習活動を。
  - ・次世代への橋渡しとなる事業、職場復帰のきっかけとなるような事業を行う。
  - ・子どもの自己肯定感、自己有用感を育む。
  - ・人数制限のある講座や Zoom 講座で対面の重要性をあらためて知った。
  - ・事業は変えるものと変えないものとに分けて継続性をたもつ。
  - ・失敗の体験から学ぶことが子どもの成長につながる。実体験の重要性。
  - ・子どもの居場所、大人がふらりと立ち寄れる場。
- キーワード:オンライン学習、対面の重要性、自己肯定感、自己有用感、次世代の育成

令和3(2021)年3月26日

- ・公民館で優先してフォローすべき方々は誰だろうか。子育て世代か孤立した大学生か。対象者を思い浮かべて組み立てる。
  - ・公民館職員と一緒に考える機会をもつ。現場の声を聞く。それらを報告書に活かす。
  - ・SDGs の学習は学校だけでは足りない。公民館に関わる地域の方々の力を借りたい。
  - ・公民館が学校に関わる方法を中心に考えると良い。
  - ・公民館は地域主体で運営され、住民の生活基盤としてある。報告書にはそれを描く。
  - ・公民館を拠点にする。オンラインも活用する。対面の取り組みも入れる。情報スキルのない高齢者への支援など新しい生涯学習の形が模索できないだろうか。
- キーワード:公民館が働きかける対象者、子育て支援、職員と一緒に考える、職員の声を知る、学校と公民館、対面とオンラインの併用
- 主題(テーマ)のヒント:公民館を核とした地域づくりの新たな展開(仮題)

令和3(2021)年10月4日

- ・コロナの影響で子ども達が元気をなくしている。子ども達が参加できる事業を考えたい。

- ・公民館と既存団体との連携、協働の拡がりがあって良い。うまくいったら紹介する。
- ・子育て支援講座を通じて修了後の活躍が期待できる例もある。
- ・公民館の地域活動への取り組みが十分伝わっていないのではないか。公民館のイメージ調査と一般市民が公民館に何を望んでいるのか調査を要する。
- ・学びと活動を循環させることを視点のなかに取り上げたい。
- ・公民館職員の関心事として人権やジェンダー、国際理解などへは比較的薄いことが分かった。それらももらさず取り上げたい。
- ・公民館の事業を全市的な取り組みと個別の館の取り組みを分けて考えることもできる。
- ・公民館には地域づくりのイメージが薄い。活動も少ない。実践の方向を示したらどうか。
- ・学校教育と社会教育の往還も視点に取り入れたい。
- ・公民館が誰もが集まれるプラットフォームとしてであるとよい。孤立している方、支援を必要とする方も立ち寄れる場でありたい。

キーワード:人権、ジェンダー、国際理解、人と人をむすびつける、団体との連携協働、学びと活動の循環、後継者育成、全市的取り組みと個別館の取り組み、関心事の拡大、学校教育と社会教育、地域のプラットフォーム

ディスカッションでの意見:力のある職員を育てる、利用者への枠組みが阻害要因、社会的に意義ある取り組み

## [ 後半2年:令和4(2022)年～令和5(2023)年 ]

なんとしても提言をとりまとめて公民館職員、市民の皆さまの役に立ちたい。それには提言の主題(テーマ)と3つの柱(考える視点)を明らかにすること。公民館職員へのアンケート調査やヒアリング調査を行い、現場に息づく生の声を聞くこと。市民アンケート調査を行い公民館に対するイメージや市民が何を求めているのかを知ること。

データをそろえたら分析にかかり、提言の骨格を組み立てよう。さあ忙しくなる。研究調査をスピードアップしよう。後半は新たな思いでスタートを切りました。

令和4(2022)年2月14日

まず足元をたしかめることから始めました。前半のふりかえりです。「公民館と地域づくりをめぐる議論の経過」と題するプリントをもとに立ち位置を確認しました。プリントから見出しを抜き書きして紹介しましょう。

### 「公民館と地域づくりをめぐる議論の経過」

- 1 選択した仮主題(公民館を核とした地域づくりの新たな展開)について
- 2 公民館への期待と現状について
- 3 公民館を中心(拠点)とする地域づくりの必要性について
- 4 研究調査の継続にかかわる今後の方向性について
  - ・どのようなアプローチで研究調査を進めるのがよいか(アンケート調査、ヒアリング調査)
  - ・どのような事例等を取り上げるのがよいか(前半にあがったキーワードなどから事例のヒントに)
  - ・どのような形で提案をまとめるのがよいか(たとえばモデルプログラム、事例集、フローチャート)

令和4(2022)年4月21日

- 1 研究調査の柱について
 

研究調査の柱を明らかにするために、グループワーク(第4回会議)での意見、前期(令和元(2019)年12月)の研究調査報告書から拾ったキーワード、第5回会議での発言を持ち寄り議論する。
- 2 小委員会の役割について
 

研究調査作業を促進するために、小委員会(委員7名)を発足させる。

令和4(2022)年7月27日

1 研究調査の柱について

研究調査の柱として3つを据える(文言は引き続き検討)

- 子ども・若者を支え、活かす機会と場づくり
- 多世代、多様なひとたちに、より開かれた居場所づくりと学びづくり
- 人財をより輝かせる仕組みづくりと学びの機会づくり

2 アンケート調査、ヒアリング調査について

市民向けの「相模原市立公民館利用状況アンケート調査」(小委員会提案)の実施を決定する。  
10月1日調査開始、10月下旬調査終了。  
公民館職員に対するヒアリング調査については小委員会でさらに検討する。

令和4(2022)年11月8日

1 小委員会報告事項1「研究調査・提言の柱」これまでの整理について

研究調査の基盤となる理念。持ちこしたSDGs やウェルビーイング、現代的な課題・視点の扱いについて意見を交換。また研究調査の3つの柱(第7回会議)を確認し承認する。

- 子ども・若者を支え、活かす機会と場づくり
- 多世代、多様なひとたちに、より開かれた居場所づくりと学びづくり
- 人財をより輝かせる仕組みづくりと学びの機会づくり

2 ヒアリング調査について

ヒアリング調査を行う公民館(小委員会提案)について緑区、中央区、南区からそれぞれ2館ずつ6館を決定する対象者は館長、館長代理、職員の3名。訪問者は各館とも委員2名。12月15日調査開始、1月12日調査終了。

3 アンケート調査の結果について 概要報告のみ。

令和5(2023)年2月22日

1 ヒアリング調査の結果について

6館について行ったヒアリング調査の結果を発表。聞き取った内容から委員全員が共有すべき事項や、調査から見てきた現状と課題について話し合う。その後、各区に分かれてグループ討議を行い、話し合った内容を発表する。主な発表内容は次のとおり。

A 区

- ・立地条件から地元の人だけでなく他市の利用者も多い。若い世代が多く住む地域のためか地元愛が希薄のように感じられる。その点をどうするのが課題として認識されている。
- ・子ども若者も交えて多様な人たちが「ふらり」と寄れるような環境づくりが大切。職員の対応も含めてふらりと寄れる環境づくりが重要である。
- ・自由な発想を生かすには自由な使い方が必要。公民館の利用方法について見直しが必要なのではないか。
- ・人材やリソースがあるにもかかわらず生かしきれていない。パイプ役やコーディネーター役をどのように育成するかが重要である。
- ・任期付職員の短期間の異動はせつかく地域と繋がりができても事業に生かし切れない。地域の人にとっても職員にとっても損失ではないか。
- ・専門部会委員の高齢化、委員の成り手の無さに課題がある。

B 区

- ・市民に対して「社会教育とは」の周知が必要。社会教育、社会教育委員について広く知ってもらい、その一つとして公民館事業があることを知ってもらうべきである。
- ・公民館のシステムを時代に合ったものに変える。若者に来て欲しいと思うのであれば変えていかないとはいけない。

- 団体登録をしないと会議室が空いていても使えないという点は柔軟に対応できるようにしたい。
- 公民館という名前も変えて良いのではないか。武蔵野市では「武蔵野プレイス」という名称で親しまれている。若者たちのニーズをキャッチしながら、公民館を運営しなければいけないのではないか。
- 子ども若者を支えるための子どもの居場所としてどこの公民館でも簡単に利用できるようにして欲しい。
- 不登校の生徒が増えているが、学校以外に行く場所が無い。居場所づくりの重要性が長く叫ばれているが実現しない。公民館にその機能を入れられないだろうか。
- 職員の異動周期をもう少し長くして欲しい。地域の人たちと知り合い、事業を2年3年かけて実施しても異動となり、次の職員が地域と繋がりを作るのにまた多くの時間を要してしまう。異動周期を緩やかにすれば、公民館活動をさらに活発にできるのではないか。
- コロナ禍が収束しつつあり、時代に合ったシステムの変更を考えていく時期に差し掛かっているのではないか。

## C区

- 地域に合わせた利用ルールを作る必要があるのではないか。利用条件は公民館ごとに事情が異なるため、横並びというシステムを変えてはどうか。
- なり手の固定化が課題。公募をしても同じ顔ぶれになってしまう。打開策として3年ごとに企画者を交代するというルールや、子ども向けの事業は子どもたちも企画から参加してもらうなどの工夫をしている。そこに高齢者の繋がりを活かした、経験者をメンターにする制度を設けるのはどうか(提案)。メンターが後輩を育て、後輩の活動を後押しすることができるのではないか。
- 人材の育成のなかで最も大きな課題は職員が短期間で異動すること。館長代理によって館全体の雰囲気が決まってしまうことではないか。意欲の高い人や若いときに公民館の経験をしている人に館長代理になってもらいたい。
- 研修制度で職員を育てるシステムを作ってはどうか(提案)。モチベーションを育てるシステム作り、社会教育主事の資格(または社会教育士の称号)の取得、取得後の意欲を育くむことに時間的財政的な助成をしてはどうか。

## 2 アンケート調査の結果について

Webアンケートクロス集計の結果、楽しめる学びと催しに関するアンケート調査の集計結果、市政に関する世論調査報告書(公民館について)を参照し、意見を交換する。

令和5(2023年7月3日)

## 1 ヒアリング調査の結果について

### 2 小委員会からの報告及び提案に基づく協議

「公民館がどうあったら良いか」について5月2日、小委員会がもたれ、そのあらましについて報告する。小委員会で多かった発言は以下のとおり。

硬い報告書でないこと。研修の問題(外部講師と内部研修)。貸室の利用方法と予約方法(団体登録、予約システム、時間帯(コマ割り)、キャンセルリリース)の問題。

公民館は社会参加の場。場の提供。社会教育委員とは何か。公民館の地域性、立地条件。公民館マップ。公民館の未来デザイン。問題解決のための提案。オープンスペース。人財(人財バンク)について。

その他の発言も紹介する。

SDGsについて。拠点館、実行館。事業・講座の考え方(濃い内容の良否、参加者が多ければ良いのか、講座などの実行メンバー固定の弊害)。

小委員会報告に基づき3グループに分かれて討議を行い、話し合った内容を発表する。主な発表内容は次のとおり。

- イラストを多用して見易くする。
- 構成は現状、課題、方略、未来像としてはどうか。
- 他市の状況を参考にすると、公民館へのWi-Fi設置は必須であろう。

- ・拠点公民館と実行公民館という考え方は良い。
- ・難しいなと受け取られる冊子は避けたい。
- ・URL、QRコードを入れて情報の広がりをはかり、情報へのアクセスを容易にする。
- ・絵漫画で表してはどうか。得意な子どもを巻き込んで描いてもらうのも良い。
- ・空いている会議室などを解放するともっと利用されるようになる。
- ・報告書の活用方法として公民館事業を企画する際に読んでほしいものでありたい。
- ・報告書がまちづくりの議論のきっかけになると良い。
- ・未来デザインには公民館のオープンスペースの利用、公民館の愛称を子どもたちから募集、社会に埋もれた人財を表舞台に立っていただく方法、子どもたちに活躍のチャンスを与えることなどを盛り込みたい。
- ・報告書が若者へのメッセージとなるように表したい。

令和5(2023年10月12日)

## 1 小委員会からの報告及び提案

### 2 研究調査報告書の作業分担について

話し合い、調査、まとめは3本の柱に沿って

議論を重ねてきた研究調査の3つの柱(考える視点)は、令和4(2022)年11月8日の会議でまとめられました。柱をとりまく考え方も肉付けされ、柱は単独ではなくそれぞれの柱が相互に関連することも確認し、キーワードも整理されました。

柱、考え方、キーワードはこの報告書を貫いている精神というべきものです。以下にそれらを紹介しましょう。

#### 柱1 [子ども・若者を支え、活かす機会と場づくり]

\*考え方

- ・子ども・若者に学ぶ。
- ・子ども・若者が安心して力を発揮出来る、子どもが参画あるいは主役となれる場所と機会づくり。  
キーワード: 実体験、達成感、主体性、可能性を伸ばす、楽しさ、チャレンジ、放課後・土日の使い方。
- ・子ども・若者の育ちを支えるおとなを増やす学びの機会づくり。  
キーワード: 子どもの多様な特性の理解、子どもの育ちを支えるおとな育て、多様な個人・組織・機関をつなぐコーディネート、現在の子ども若者の理解。

#### 柱2 [多世代、多様なひとたちに、より開かれた居場所づくりと学びづくり]

\*考え方

- ・多世代のニーズに合わせた居甲斐・行き甲斐のある場所にする仕組みづくり。  
キーワード: 世代間交流、多様な孤立化、公民館の新しい利用法、継続的/発展的、多様な個人・組織・機関をつなぐコーディネート。
- ・多様なひとが生きやすい地域にするための学習機会づくり(人権、コミュニケーションスキル、多文化理解等)。  
キーワード: コミュニティを支える当事者意識、退職後の地域とのつながりづくり、親支援、現在の親たちの置かれている状況理解、気づきの醸成、社会的役割の変化に対する見通しをもてる機会。

#### 柱3 [人財をより輝かせる仕組みづくりと学びの機会づくり]

\*考え方

- ・多様な主体との連携、学びと活動との循環等の仕組みづくり。  
キーワード: ネットワーク、人財のリソース化、多様な個人・組織・機関をつなぐコーディネート、大学、情報の共有と往来。
- ・これまでに得たスキルや知識の磨き直し、現代的な課題を継続的に学ぶ機会づくり。  
キーワード: リスキリング、おとなにとっての学ぶ喜び、コミュニティを支える当事者意識。

## むすびにかえて

### [ 相模原市の公民館の特色 ]

相模原市の公民館<sup>7</sup>は、誕生から70年以上の歴史を刻んでいます。市内の一カ所を中央館とするのではなく、各地域に独立した公民館があることは大きな特色です。

それぞれの公民館では、地域の実情に根ざした公民館活動が展開されるように、公民館運営協議会や専門部が設置され、公民館の運営全般に住民自らが参画し、協議し、推進していることも全国に誇れるしくみです。

その証は「専門委員会を中心とした住民主体の公民館活動は非常に大切で、他市に対しても誇れるものであると考えます」「40年と長い歴史の中で、専門委員の団結は強く感じています。共に歩んで培われた関係が、事業の企画運営に反映していると感じます」「地域課題や社会課題を考慮し、ただのお楽しみに終わらない地域への貢献度が高い事業に取り組んでいます」(ヒアリング調査より)と自負する職員の皆さんの言葉によって裏付けられます。

仕事上、生活上で大事にしていること、事業で心がけていることなどについて、職員の皆さんにヒアリング調査をしたところ次のような答えが返ってきました。「地域の人とのつながりを大切にしている」「地域の方々の思いに近づき理解し、その思いに応えられるよう努力している」「事業が地域づくりとどうつながっているか考えながら取り組んでいる」「地域づくりの拠点を担っていると意識している」。

また、勤めていて喜びを感じることへの質問では、「ありがとうの言葉」「ねぎらいの手紙」「参加者に喜んでもらえること」「公民館に来た人とサークルをつなぎ、その人の出会いや人生の時間に少しでも役立てたとき」「参加者が学び成長する姿を見たとき」など相手の喜びを自身の喜びに感じる利他意識にあふれた姿、住民への献身に務める姿があります。

そうした志の高い職員の皆さんですが、一方で苦戦している点も聞かれます。「人口減少が顕著な地域なので、参加者の固定化や新規参加者の獲得には、物理的な影響が大きく課題」「学級を続けていると長く在籍する方の意見に左右されてしまうこともある。それを防ぐために学級の準備委員は3年やったら交代するようにしている」「高齢者が多く元気でパワフルだが変化が難しい」「職員の社会教育に対する思いや地域の課題を反映した事業を展開するには、任期付(3年)では職員の能力を発揮するのに年数が足りないと感じる」といった悩みも抱えています。

### [ 社会的に公民館を考える必要性 ]

公民館は身近な社会参加の場であり、学習を介しての自己実現の場でもあり大切な機能を持っていますが、全国的に「課題が多い」「要望が多様」「予算が無い」「公民館以外に学びの場や娯楽の場も増えた」との意見も見られ、公民館の存在意義をどうやって発揮する?と公民館職員の嘆きの声を聞いたりもします。

でも、マイナス面にとらわれるのではなく、公民館で活動する自分たちはどうしたいのか、どこに向かいたいのかという意志を持ち、今いる人や今あることを様々な方向から見直すことで、地域の人や地域の魅力、そして地域のネットワークが再醸成されていくのだと思います。

---

<sup>7</sup> 相模原市の公民館について詳しくは HP「さがみはらの公民館」をご覧ください

<http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kouminkan/index.html>

国の動向を見ても、直接関連する文部科学省だけではなく、経済産業省も「ものづくり人材・文化の基盤」<sup>8</sup>として公民館に注目していますし、外務省に関わる SDGs<sup>9</sup>をとってみても学びは切り離せません。多様性の尊重や理解の推進、教育構造の変革、ジェンダー平等、格差・貧困の解決、産業構造の変革、戦争…社会の状況は幅広い問題領域で学ぶ必要を迫ってきているようです。

だからといって「社会的に必要なから」を出発点にするだけではなく、自分と自分の身近な人たちが地域の中で暮らしやすくなるために、と学んでいたら社会の問題につながっていた、学習の場であつた気の合う人と語りあっていたら、まちのためにやりたいことが一致した…そんな出会いを作れるのが公民館だと思います。

この報告書は、私たち社会教育委員の願うこれからの公民館についての提案です。

公民館の職員や、様々なスタッフ、企画運営に関わる多くの市民の皆様が、パラパラとめくって興味をもったページから、「こういうのちょっとやってみようかな」と思うきっかけ作りにつながったらどれほど嬉しいでしょう。

今回の報告書の土台となることは、前回の社会教育委員会議の報告書<sup>10</sup>にまとめられています。改めて読み返していただくと、こことこれがつながっているのだ、という気づきがあるかもしれません。

相模原の公民館がますます市民に愛される公民館でありますように。

---

<sup>8</sup> 経済産業省 2018 年版ものづくり白書

<https://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2018/honbun/html/honbun/103024.html>

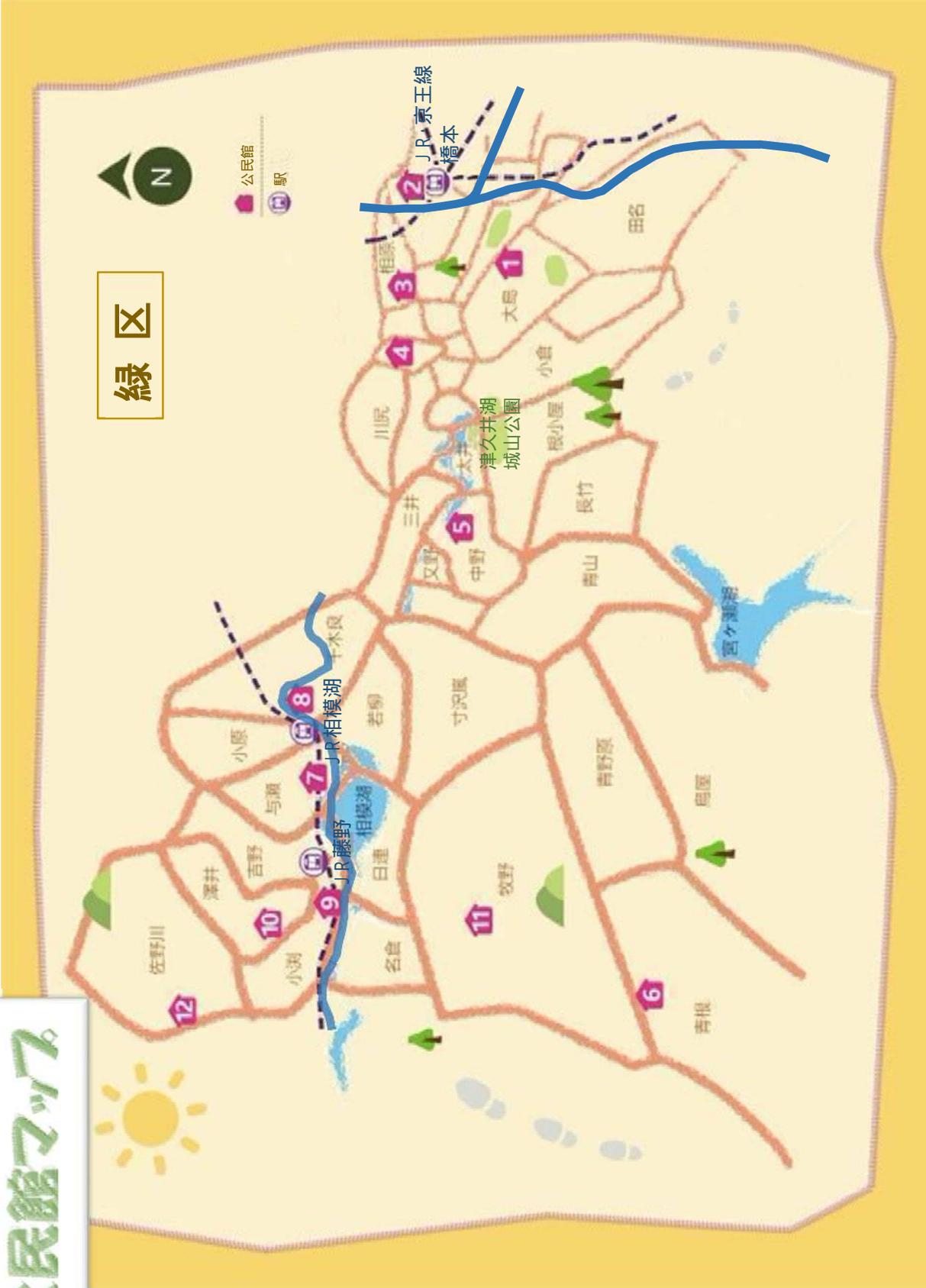
<sup>9</sup> SDGs: 持続可能な開発目標 (SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。(出典:外務省 HP 2023.10.06)

<sup>10</sup> 令和元年12月研究調査報告書「社会教育が拓く豊かな地域コミュニティ ～人づくり、場づくり、仕組みづくりの実践と豊かな地域社会の創造～」

[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/001/018/143/houkoku.pdf](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/018/143/houkoku.pdf)

# 公民館マップ

## 緑区



## 緑区の公民館

- ① 大沢公民館
  - ・女性が楽しく学べる「わいわい女性学級」 料理実習室、保育室等も充実
  - ・生きがいを求める高齢者「はつらつ学級」講座
- ② 橋本公民館
  - ・アクセス利便性が抜群(橋本駅)で利用しやすい
  - ・ハイレベルな学級内容を作り上げる利用者や職員とのタッグ
- ③ 相原公民館
  - ・幅広い年代への多彩な学級・講座がいっぱい
  - ・公民館に来た人が自由に憩えるスペース「あいみんルーム」
- ④ 城山公民館
  - ・貸室 15 部屋とフリースペースを有する相模原市内最大規模の公民館
  - ・城山地区等の歴史、民俗、自然等に関する地域住民主体の活動「城山エコミュージアム」

- ⑥ 津久井中央 ・⑥ 青根公民館
  - ・定員415名の大ホールを備え、種々のコンサートやピアノ講習会を開催
  - ・津久井の自然を活かした健康づくり講座「津久井を歩こう」
- ⑦ 相模湖 ・⑧ 千木良公民館
  - ・子どもに人気の相模湖デイキャンプ「カヌー体験」や「わくわくサマースクール」
  - ・充実した図書室と落ち着いて利用しやすい学習室
- ⑨ 藤野中央・⑩ 沢井 ・⑪ 牧野・⑫ 佐野川公民館
  - ・地域の文化、歴史、自然を楽しみながらの「健康づくりウォーキング講座」
  - ・「焼製づくり」、「手芸」、「竹かごづくり」、「細編み人形作り」といった多彩な趣味講座を多数開催

### 公民館マップについて

\* 各館の紹介は「社会教育委員の推し point」  
(事業については令和3年度、4年度公民館資料を参照しました。)

\* イラスト地図の作成は桜美林大学石川ゼミの留学生  
謝 シキさんにご協力いただきました。



## 中央区の公民館

- ①上溝公民館
  - ・市内初の独立公民館であり、上溝の郷土文化創造の拠点をめざす
  - ・出会いとふれあいの高齢者「なごみ学級」講座
- ②小山公民館
  - ・みんなが参加できるスポーツ/レクレーション大会が多く開催
  - ・日本文化等を学べる女性学級を実行委員会体制で充実
- ③田名公民館
  - ・映像音響設備/ピアノ/舞台を備え、講演会/ダンス/学習活動等の集会对応した大会議室(定員120名)
  - ・地域の歴史を学ぶ学習講座や文化活動が活発
- ④大野北公民館
  - ・市民の自主企画提案と自主的な運営で多様なテーマの「はやぶさ塾」
  - ・小学生を対象にした「ゆめ教室」はいつも大入満員！
- ⑤星が丘公民館
  - ・比較的歴史の新しい公民館区だが、地域みんなの「たまり場」を目指している
  - ・子育てフォローアップ、家庭教育支援の講座/学級を充実

- ⑥清新公民館
  - ・地域より子ども数が多い背景から、子育て支援や子ども向けの集い事業が多数
  - ・色々な使い方ができる多目的室が2部屋と充実
- ⑦中央公民館
  - ・中央区の魅力を感じ、人と人がふれあう、内容が盛りだくさんのフェアを開催
  - ・子育てに役立つ中央地区の公園情報や避難場所等の中央区情報の発信拠点
- ⑧横山公民館
  - ・近隣の高校の科学部と連携した科学実験ショーといった子ども向け講座が多彩
  - ・七夕飾り行事やしめ飾り教室といった日本の文化を学び、交流する事業あり
- ⑨光が丘公民館
  - ・互いの親睦と積極的な生きがいを求める高齢者学級が充実
  - ・気軽に参加でき、誰もが楽しめるスポーツ講習会・つどいが多数
- ⑩陽光台公民館
  - ・市街地のなかで街路樹に囲まれ、ゆったりとした環境の公民館
  - ・バーチャルやリアルなどの多様なウォークング講座あり



## 南区の公民館

- ①大野南公民館
  - ・大人が介在しない「子どもまつり」等、子どもの自主性を重んじた事業多数
  - ・アクセス利便性が抜群(相模大野駅)ー利用団体数多数
- ②新磯公民館
  - ・幅広い種目のスポーツ/レクリエーション大会が多く開催
  - ・地域の歴史/文化や色々な楽しみを見出す学習講座が充実
- ③麻溝公民館
  - ・高齢化に対応した健康や生きがいに関する講座多数
  - ・充実した文化展やリモート演奏会、新しくてきれい!
- ④大野中公民館
  - ・子どもたちの健やかな成長を育む活動が多い
  - ・市立博物館との連携で、各専門分野で学芸員の講義をライブ配信
- ⑥相模台公民館
  - ・健康づくり委員会、子育てサポート委員会を設置しての充実した事業
  - ・スポーツ、ダンス、教養、音楽と多岐にわたるサークルが活動

- ⑥相武台公民館
  - ・地域の多数の高齢者に対応した趣味と学習の講座が充実
  - ・地域の人材を活かした「ちょっとだけ先生」による多彩な教室
- ⑦東林公民館
  - ・地域住民やサークルの文化活動の展示・発表会が盛大
  - ・駐車場台数が多く利用しやすい
- ⑧大沼公民館
  - ・参加者多数で盛況の「七夕まつり」と「飾って楽しむクリスマス」を開催
  - ・卓球大会、グラウンドゴルフ大会とスポーツ推進事業が充実
- ⑨上鶴間公民館
  - ・1年を通して、同年代の子を持つ親の交流を図る家庭教育講座を開催
  - ・自然観察や工作へのわんぱくチャレンジや子どもまつりといった子どもの向けイベントが多数
- ⑩大野台公民館
  - ・自らの足と目と耳で地元を調べ地域への理解を深める「地元学大野台」講座を14年間継続
  - ・”ロビーピアノ”の開放や学習スペースを開放あり

相模原市社会教育委員会議 開催経過

開催年月日	会議名	出席委員	傍聴者数	主な内容
R2. 2. 12	令和元年度 第4回定例会	13人	0人	・今後の研究調査について
R2. 8. 24 ～ R2. 9. 4	令和2年度 第1回定例会 【書面会議】	—	—	・各委員の社会教育・生涯学習に関する 取組内容の情報共有
R2. 11. 16	令和2年度 第2回定例会	13人	0人	・コロナ禍における学習活動について
R3. 3. 26	令和2年度 第3回定例会	14人	1人	・コロナ禍における市内公民館の取組状況 について ・研究調査の方向性（公民館を核とした地域 づくりの新たな展開）の共通認識
R3. 5. 19	令和3年度 第1回定例会	12人	0人	・今期の研究調査の進め方について
R3. 10. 4	令和3年度 第2回定例会 【オンライン会議】	14人	0人	・今期の研究調査の進め方について
R3. 11. 29	令和3年度 第3回定例会	14人	0人	・次期への研究調査の継続について 「公民館と地域づくりをめぐる議論の経 過」まとめ
R4. 2. 14	令和3年度 第4回定例会	13人	0人	・前期の経過及び今期の研究調査について ・小委員会の設置について ・市民アンケート調査について
R4. 4. 21	令和4年度 第1回定例会	14人	1人	・研究調査の柱について ・小委員会の役割について
R4. 5. 18	令和4年度 第1回小委員会	7人	1人	・アンケート調査、ヒアリング調査の進め方 について
R4. 7. 27	令和4年度 第2回定例会	14人	0人	・研究調査の柱について ・アンケート調査、ヒアリング調査について
R4. 8. 17	令和4年度 第2回小委員会	6人	1人	・研究調査の柱について ・アンケート調査、ヒアリング調査について

開催 年月日	会議名	出席 委員	傍聴者 数	主な内容
R4. 10. 14	令和4年度 第3回小委員会	7人	0人	・ヒアリング調査について
R4. 11. 8	令和4年度 第3回定例会	13人	0人	・「研究調査・提言の柱」これまでの整理 ・ヒアリング調査の実施方法等 ・アンケート調査等の結果
R5. 2. 22	令和4年度 第4回定例会	14人	0人	・ヒアリング調査の結果について ・アンケート調査の結果について
R5. 5. 2	令和5年度 第1回小委員会	6人	0人	・各調査結果のまとめについて ・研究調査のまとめ方（素案）について
R5. 7. 3	令和5年度 第1回定例会	12人	0人	・各調査結果のまとめについて ・研究調査のまとめ方（素案）について
R5. 8. 24	令和5年度 第2回小委員会	5人	0人	・研究調査報告書のまとめ方（案）及び 構成案について
R5. 10. 12	令和5年度 第2回定例会	12人	0人	・研究調査報告書のまとめ方（案）及び 構成案について ・研究調査報告書の作業分担について
R5. 11. 9	令和5年度 第3回小委員会	7人	0人	・研究調査報告書における内容の確認、 整理等について ・研究調査報告書（案）について
R5. 12. 8	令和5年度 第3回定例会	12人	1人	・研究調査報告書（案）の確認、修正 ・次期委員への申し送りについて

（定例会15回、小委員会6回開催）

相模原市社会教育委員会議 委員名簿

	選出区分	氏名	役職等	委嘱期間	備考
1	学校教育の 関係者	井上 一恵	相模原市立鶴園小学校長	R2. 1. 11～ R2. 4. 16	
2		小泉 勇	相模原市立田名小学校長	R2. 4. 17～ R5. 4. 26	小委員会委員
3		奈良田 久	相模原市立串川小学校長	R5. 4. 27～ R6. 1. 10	小委員会委員
4	社会教育の 関係者	金子 友枝	相模原市文化協会 副会長	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	
5		中里 浩章	相模原市P T A連絡協議会 会長	R2. 1. 11～ R3. 5. 31	
6		小泉 喜亮	相模原市P T A連絡協議会 会長	R3. 6. 1～ R6. 1. 10	R5.5.27～ 当該団体 顧問
7		藤嶋 直司	相模原市公民館連絡協議会 会長	R2. 1. 11～ R3. 5. 19	副議長
8		大谷 政道	相模原市公民館連絡協議会 会長	R3. 5. 20～ R5. 5. 16	副議長 小委員会委員
9		大久保 宗俊	相模原市公民館連絡協議会 会長	R5. 5. 17～ R6. 1. 10	副議長 小委員会委員
10		安西 信行	相模原市子ども会育成連絡 協議会 事務局長	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	
11	家庭教育の 向上に資する 活動を行う者	大橋 千景	虹のおはなし会 代表	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	
12		若林 由美	こども家族早期発達支援 学会 事務局長	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	小委員会委員
13	学識経験の ある者	石川 利江	桜美林大学教授	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	
14		秦野 玲子	RE Learning代表	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	小委員会委員長
15		古矢 鉄矢	北里研究所参与	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	議長 小委員会委員
16		小林 政美	特定非営利活動法人 男女共同参画さがみはら 副代表理事	R2. 1. 11～ R6. 1. 10	

	選出区分	氏名	役職等	委嘱期間	備考
17	市の住民	大野 俊文	公募	R2. 1. 11～ R4. 1. 10	
18		長沢 亜希子	公募	R2. 1. 11～ R4. 1. 10	
19		海野 浩	公募	R4. 1. 11～ R6. 1. 10	
20		水谷 英正	公募	R4. 1. 11～ R6. 1. 10	小委員会委員
21	教育委員会が 特に必要と 認める者	三井 泰平	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市こども・若者自立 サポート事業総括	R2. 1. 11～ R4. 1. 10	
		雨宮 健一郎	特定非営利活動法人 文化学習協同ネットワーク 相模原市こども・若者自立 サポート事業総括	R4. 1. 11～ R6. 1. 10	小委員会委員

相模原市社会教育委員会議 研究調査報告書  
「もっと〇〇〇公民館 ～あなたはこの〇〇〇にどんな言葉をいれますか～」

令和5年12月

発行 相模原市教育委員会 教育局生涯学習部生涯学習課（事務局）  
〒252-5277 相模原市中央区中央2-11-15  
電話 042-769-8286（直通）